

小田原城跡(小田原市)

築城年代: 応永24年(1417年)、築城者: 大森頼春



登城ルート

- ① 大手門跡
- ② 幸田口門跡
- ③ 馬出門
- ④ 馬屋曲輪跡
- ⑤ 御茶壺曲輪跡
- ⑥ 銅門
- ⑦ 二の丸跡
- ⑧ 本丸東堀跡
- ⑨ 常盤木門
- ⑩ 本丸跡
- ⑪ 報徳二宮神社
- ⑫ 箱根口門跡
- ⑬ 清閑亭
- ⑭ 御用米曲輪跡
- ⑮ 焰硝曲輪跡
- ⑯ 弁財天曲輪跡
- ⑰ 大久保神社
- ⑱ 北条氏政・氏照の墓所

① 大手門跡

ここは大手門跡/この背後一帯は三の丸跡/正面に説明坂がある



国指定史跡 小田原城跡「大手門跡」

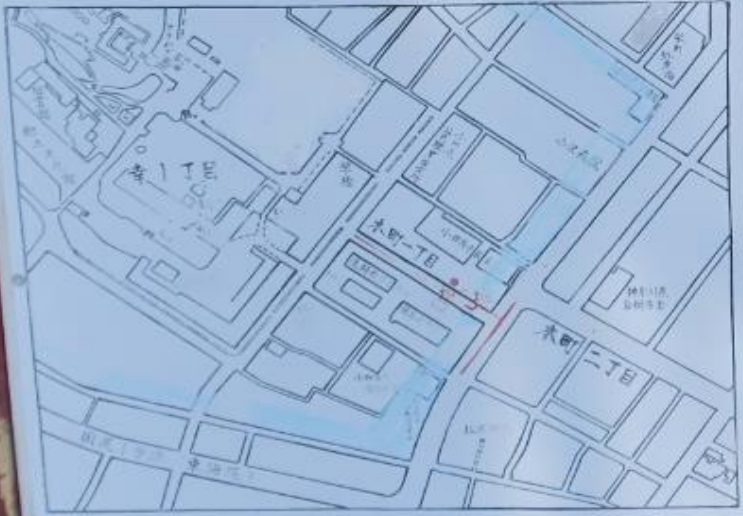
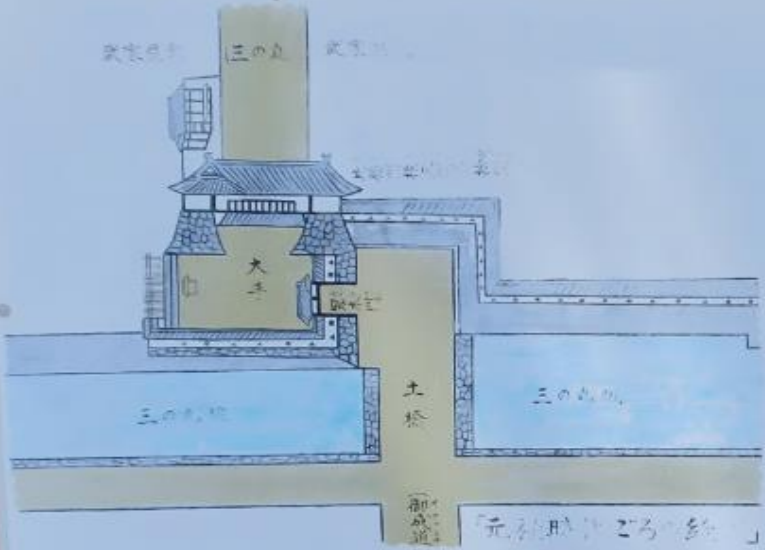
(昭和十三年八月八日指定)

この場所は、江戸時代の小田原城の大手門があった所です。
この門を入ると西側一帯は三の丸となり、道の両側に小田原藩の家老級の屋敷が並んでおりました。

それまで箱根口付近にあった大手門を、稲葉氏が城主であった寛永十一年(一六三三)に、三代將軍徳川家光が京都に上るのに備えて、江戸に向く現在地に移し、大手門前までの道は將軍家が小田原城に入るための、御成道として整備され、東の入口であった江戸口見附も、国道一号線沿いの現在の位置に移されました。

大手門の造りを元禄時代ごろの絵図で見ると、三の丸の堀に架かる土橋を渡ると、外からの攻撃や敵の侵入を防ぐための、馬出と呼ばれる空間があり、更に冠木門と呼ばれる門から、櫓形と呼ばれる四角い空間に入ります。この櫓形は、櫓門や石垣、堀で囲われており、嚴重で、立派な門であったことが分かります。

(小田原市教育委員会)



上部は鐘楼となっている





鐘 楼

この鐘は現在、朝夕6時につかれ、時を知らせている。

時を知らせる「時の鐘」は、長い間、昼夜の隔てなくつかれていた。江戸時代の貞享3年(1686)の「貞享3年御引渡記録」の中に「小田原町の時の鐘は昼夜ついている。鐘つきの給金は一年金六両で、この内金三両は町方から、三両は町奉行所から違わしている」という記事があり、300年以上前からつかれていることになる。

この鐘は、初め浜手御門(ここより約150m南)のところにあったのを、明治29年(1896)裁判所の東北隅に移され、さらに大正年間に現在の場所に移された。

昭和17年(1942)には、太平洋戦争の激化により、軍需資材が欠乏したため、政府は金属類の供出命令を出し、鐘は廃召される(「時鐘廃召」と呼ばれた)。

その後、時報は鐘に代わってサイレンやチャイムになったが、城下町に似つかわしくないということで、昭和28年(1953)小田原寺院団によって新しい鐘が作られた。これが現在の鐘である。

Shoro Bell Tower

This bell is struck every day at six o'clock in the morning and six o'clock in the evening. The bell tower has been moved twice to date: First, in 1896, from its original location of 150 meters to the south to the northeast corner of the courthouse; and then, during the Taisho Period (1912 - 1926), to its present location.

In 1942, the bell was requisitioned by government decree for use in the Pacific War as the war intensified and military resources became scarce. The bell was replaced by a siren and later by a chime, neither of which was popular among the people in this castle town. Therefore, a new bell was fabricated in 1953. This bell can still be heard today.

② 幸田口門跡

一筋右手のところに「幸田口門跡入口」と記された表示板があった



この階段を登って行く





これは三の丸の土塁のようだ



こんな感じ



前方に続いている



これは土塁の先の道路に出て、振り返って見たところ/説明坂(左手)と石碑(右手)がある

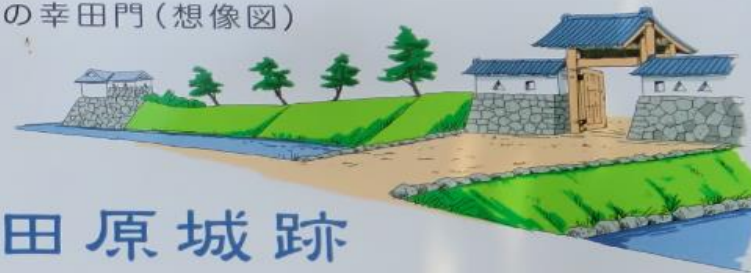




文化財はみんなのもの



江戸時代の幸田門(想像図)



国指定史跡 小田原城跡

三の丸土塁 指定 昭和13年8月8日

この土塁は、江戸時代の小田原城の三の丸の土塁跡です。当時は、本丸、二の丸(現在の城址公園周辺の範囲)を包むようにお堀と土塁を巡らし、三の丸としていました。この土塁は、三の丸の土塁が残されている数少ない場所のひとつです。

この場所の西側に幸田門こうせうもんという三の丸の入口がありました。その跡の一部が発掘調査で見つかっています。

戦国時代に上杉謙信や武田信玄が小田原城を攻めた時には、この幸田門から小田原城を攻めたと考えられています。北条氏康・氏政父子は、籠城策を用いてこれを退け、小田原を守り抜きました。



武田信玄



上杉謙信



北条氏康



「幸田門趾記念碑」



さて、ここは二の丸の東堀/説明坂が立っている





国指定史跡小田原城跡

二の丸東堀

指定 昭和13年8月8日

小田原城は、江戸幕府の三代将軍家光の乳母、春日局の子稲葉正勝が寛永9年(1632)城主になると、大規模な工事が行われ、石垣を備える近世城郭として整備されました。

二の丸東堀は、本丸・二の丸を守る堀の中でもっとも大きなもので、幅は最大で約40mあり、現在よりもさらに北に約60m先まで続いていました。また、西は常盤木橋、南は南曲輪の前までつながっていました。

現在の石垣は、大正12年(1923)の関東大震災で崩れたものを昭和初期に復旧したのですが、右の写真のとおり、江戸時代の石垣は今のものよりも高く、二の丸の石垣として威厳のある姿を見せていました。

なお、震災直後、一時この堀を埋め立てる計画がありましたが、小田原保勝会が中心となって保存運動を起し、その結果二の丸東堀は、今日までその姿を残すことができました。

小田原市教育委員会



文久圖(江戸時代末期)



明治36年頃の二の丸東堀
(絵葉書「相州名所 小田原城址 御用邸」)



二の丸跡(右手)へ橋が架かっている/左手は三の丸跡



さまざまな資料が掲示されている

小田原城・戦国時代の遺構



三の丸 新堀土塁



小峯御鐘ノ台大堀切東堀



早川口遺構



八幡山古郭 東曲輪

石垣山一夜城



二の丸から本丸を見る



井戸曲輪の石垣



一夜城からの眺め

これは「学橋」/向こうが二の丸跡



更に進むと二の丸隅櫓(右手)、馬出門(中央)、馬出土橋(左手)が見えてくる



③ 馬出門

これが馬出土橋と馬出門/東側から西方向に見たところ

 [video](#)



うまだしもん

馬出門

Umadashimon Gate

馬出門は、三の丸から二の丸に向かう大手筋（正規登城ルート）に位置する門です。寛文12年（1672）に柵形形式ますがたに改修され、江戸時代末期まで存続しました。明治時代には御用邸の正門でしたが、関東大地震で倒壊しました。平成21年（2009）に発掘調査を経て、江戸時代の姿に復元整備されました。

2023.03小田原城総合管理事務所

馬出門は、三の丸から二の丸に向かう大手筋上に設けられた重要な門で、櫓形の内側に位置する内冠木門うちかぶきもんと同様、控え柱にそれぞれ屋根がつく「高麗門形式」こうらいもんの門であったと考えられています。

発掘調査によって、明治34年(1901)に設置された皇族の御用邸時代の石垣や江戸時代の石垣、門の礎石などが確認されました。

これらの成果や絵図をもとに、平成21年(2009)に高さ約6.3m、幅約4.7mの規模を持つ馬出門が復元されました。復元には、柱や扉は檜、屋根の下地は榎、土塀の控柱には栗を用いました。

御用邸時代の門は、馬出門土橋から直進して門をくぐる事ができるように向かって左側に位置をずらすとともに、石垣を高く積み直しており、写真で当時の様子を知ることができます。

Umadashi-mon Gate had an important role as a main entrance gate leading up from the Third Bailey (courtyard) to the Second Bailey. Constructed in the Kourai-mon Gate style, it features roofs on each of the side pillars.

Recent excavations have uncovered stone walls from the time when the imperial household villa was set up here, as well as stone walls and cornerstones of the gate from the Edo period. Based on the findings and old drawings, the gate was restored to a height of 6.3m and width of 4.7m.



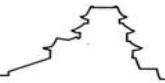
発見された馬出門の礎石跡と石垣

Excavated cornerstones and stone walls of Umadashi-mon Gate



御用邸時代の馬出門

Umadashi-mon Gate circa 1901



馬出門櫓形は、馬出門と内冠木門うちかぶきもんの二つの門と周囲を土塀で囲まれた方形の空間をいいます。

櫓形は、江戸時代初期(1645年頃)の様子を描いた正保図には馬出門土橋を渡って直ぐに馬出門が設けられていましたが、寛文12年(1672)の改修で門は、土橋を渡った奥に移動し、土橋との間に広場が設けられました。

明治34年(1901)に、二の丸一帯が皇族の御用邸となった後、関東大震災で石垣の大部分が崩落し、周囲の堀の一部が埋め立てられました。平成15年(2003)から整備のための調査を開始し、平成21年(2009)に復元整備を完了しました。

石垣の復元には、安山岩を用い、馬出門の南側を真鶴産小松石こまついし、北側を江戸城の石丁場である早川石丁場で発掘され、記録調査後に廃棄予定であった石を使用しています。

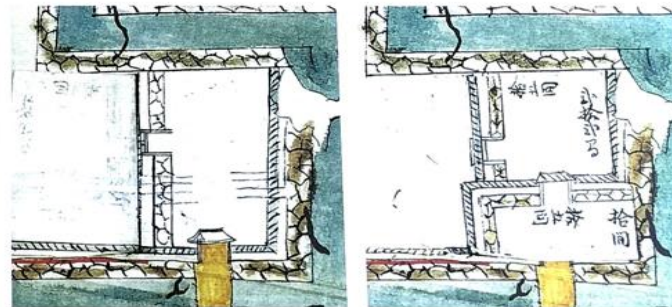
Umadashi-mon Gate Masugata is a square enclosed by earthen walls including two gates, Umadashi-mon Gate and Uchikabuki-mon Gate. After several repairments in the Edo period, Masugata has been restored to what we see today. Masugata square collapsed during the great Kanto Earthquake and the moat surrounding the square was also buried.

A restoration project was started in 2003 and completed in 2009. Rocks called Anzangan, locally produced, were used to restore the square.



発掘された馬出門櫓形
Excavated Umadashi-mon Gate Masugata

寛文図に描かれた馬出門櫓形
Umadashi-mon Gate Masugata drawn circa 1672



改修前
Before reconstruction

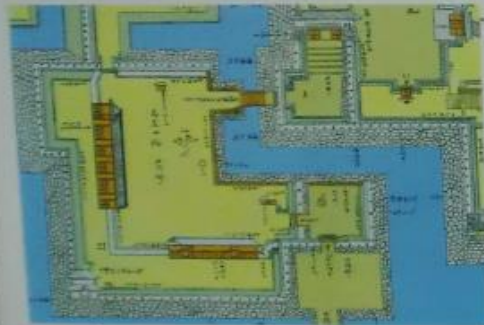
改修後
After reconstruction

史跡小田原城跡馬出門櫛形



史跡小田原城跡本丸・二の丸整備基本構想

小田原市では、国の指定史跡である小田原城跡を永久に保存し、後世に伝えるとともに、歴史的資産として活用を図ることを目的に、平成5年に「史跡小田原城跡本丸・二の丸整備基本構想」を策定しました。馬出門櫛形などの整備は、この構想に基づき進められています。



宮内庁図に描かれた馬屋曲輪

元禄時代（1700年頃）の小田原城の姿を伝えた絵図です。この図は馬屋曲輪に馬屋と大腰掛の二つの建物と二重櫓が建っていました。元禄16年（1703）の元禄地震の際にこれらの建物は消失してしまい、その後は再建されないうちに明治時代を迎えたものと考えられています。

国指定史跡小田原城跡は、昭和58年から本格的な史跡整備事業に着手し、現在、二の丸から本丸へと至る大手筋の歴史的景観の復元整備を進めています。

馬出門櫛形は、二の丸正面に位置する重要な門で、江戸時代の初期からこの場所に存在したと考えられますが、寛文12年（1672）に現在の姿に作り変えられたものです。

馬出門の整備事業は、平成15・16年度に発掘調査を行い、整備計画を立案し、平成17・18年度に石垣復元工事を、平成19・20年度で櫛形の門と土塀の復元工事を行いました。

馬出門櫛形の概要

馬出門櫛形は馬出門と内冠木門の二つの門と周囲を土塀で囲まれた範囲をいいます。二つの門は控柱にそれぞれ屋根がつく「高麗門形式」の門です。

- 馬出門 高さ約6.3m 幅約4.7m
- 内冠木門 高さ約5.3m 幅約3.6m
- 土塀 高さ約2.7m 地上高約4.3m 延長約88m

馬出門の発掘と整備計画

発掘調査により櫛形石垣の根石（基礎石）が見つかったことで、正しい門の位置が明らかになりました。これらの発掘の成果と絵図などの資料の検討を行い、復元整備計画が立てられました。

石垣工事

石垣は安山石という硬い石を使っています。門の南側は真鶴で産出する「小松石」を使い、北側は角石を除き石垣山一夜城近くで発見された、「早川石丁場」で出土した石を使いました。

門・土塀工事

馬出門と内冠木門は、柱や扉は「ケヤキ」、屋根の下地は「サワラ」、土塀の控柱は「クリ」、土塀などの柱などは「ヒノキ」が使われています。

土塀は、伝統的な工法により作られており、荒壁塗りから仕上げの漆喰塗りまで7~8回も塗っては乾かすという、大変手間がかかる工程を経て仕上げられています。

門や土塀に葺かれた瓦は、発掘で出土した江戸時代の瓦を忠実に復元したものが使われています。



馬出門の発掘調査

馬出門の発掘では、明治34年（1901）に設置された御用邸時代の石垣の位置や江戸時代の石垣、門の礎石や礎石の抜き取り穴が確認されました。

絵図との照合などから正確な江戸時代の馬出門の姿がわかり、整備計画が立てられました。



土塀の構造

馬出門櫛形の土塀は、柱と柱の間に竹小舞を組み、基礎を巻きつけたものに、土壁が塗られ作られています。仕上げの漆喰には、石灰に麻の繊維である「スサ」や牡蠣殻をすりつぶしたものを配合するという海草から作った糊で混ぜ合わせたものが塗られています。土塀の工事は約8ヶ月と馬出門の工事で最も時間を要しました。

平成21年3月29日 小田原市教育委員会

土橋から右手を見たところ/先程の「学橋」が見える

 [video](#)



左手を見たところ/東堀は前方で右手に折れている

 video



これは土橋を渡り切って右手を見たところ/左手に二の丸隅櫓が見える

 [video](#)



アップで見たところ



馬出門を潜ったここが馬出門枡形/正面の土塀の向こうに銅門の屋根が見える/左手に内冠木門がある

 [video](#)



これが左手の内冠木門/馬出門とともに高麗門形式となっている/この門の向こうは馬屋曲輪跡

 [video](#)



これは内冠木門を潜って振り返って見たところ/この門の向こうが馬出門枳形/その右手に馬出門がある

[video](#)



左手を見ると説明坂がある/正面右手に銅門の屋根が見える





江戸時代末期の小田原城絵図 (部分)

小田原城天守閣蔵

小田原城と銅門

銅門は、小田原城二の丸の表門で、南側の馬屋曲輪やお茶壺曲輪とは住吉堀によって隔てられています。江戸時代には、馬出門土橋 (現在のめがね橋) から城内に入り、銅門を通過して、二の丸御殿や本丸、天守へと進むようになっていました。

Odawara Jo Akagane Mon

(Odawara Castle Akagane Gate)

This gate is the main entrance to the second bailey of Odawara Castle, where the feudal lord resided. During the Edo Period (1603-1867), the main bailey and the donjon were reached by passing through the gate, and then Tokiwagi Gate.

劣化して何も読めない



① 小田原台梅ライオンズクラブ

ここにも説明坂がある/この堀は「住吉堀」と呼ばれるようだ/右手に内冠木門が見える

 [video](#)



あかがね
銅 門

銅門は、江戸時代の小田原城二の丸の表門で、江戸時代のほぼ全期間をとおしてそびえていましたが、明治5年に解体されてしまいました。現在の銅門は、昭和58年から行われた発掘調査や古写真、絵図などを参考に、平成9年に復原されたものです。

銅門の形式は、石垣によるますがた枅形、うちしきりもん内仕切門、やぐらもん櫓門、を組み合わせた枅形門と呼ばれる形式で、本来の工法で復原されています。

Odawara Jo Akagane Mon

(Odawara Castle Akagane Gate)

This gate, the main entrance of Odawara Castle's second bailey, was built in the early Edo Period (1603-1867). It was demolished at the beginning of the Meiji Period (1868-1912). The present gate was rebuilt in 1997 in the style of the original structure based on excavation findings and old drawings.



解体される前の銅門（明治5年）

横浜市美術館蔵

住吉堀は、^{あかがねもん}銅門と馬屋曲輪・御茶壺曲輪の間を仕切る堀で、寛永9年(1632)以降、稲葉氏による近世化工事で完成しました。大正12年(1923)の関東大震災で石垣が崩落し、その後埋め立てられ、小田原高等女学校(後の城内高等学校)が設置されていました。

昭和58年(1983)から本格的に始まった史跡小田原城跡の整備事業に伴い行われた発掘調査では、石垣の根石と呼ばれる一番下の積石と、その下に敷かれていた松の土台木が堀全体で確認され、江戸時代の絵図と合致することが確認されました。

また、絵図に描かれていない戦国時代の小田原北条氏による「障子堀」(堀底に土を掘り残し、障壁とする堀)、さらに江戸時代初期の「障子堀」や自然石をそのまま使用した野面積みの石垣などが検出され、時代によって異なる堀の変遷が確認されました。

住吉堀の石垣と堀の復元工事は、昭和63年(1988)から発掘調査と並行して、城絵図や発掘成果と整合させて行われました。

また、平成2年(1990)に住吉橋を復元しましたが、^{あかがねもんやぐらだい}銅門檣台石垣を含めた石垣までの完成には、平成7年(1995)までの6年間を要しました。

復元に際しては、関東大震災で崩落した石垣の石を使い、角石などの一部は、^{こまついし}真鶴産小松石(安山岩)を新たに使用しています。



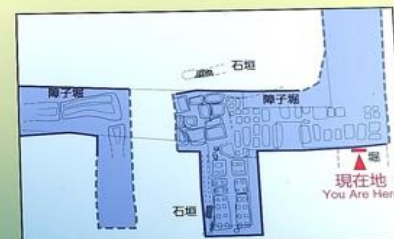
住吉堀の近世石垣と戦国期の障子堀
Early modern stone walls of Sumiyoshi moat and Shoji moat from the Warring States period



銅門の下から検出された江戸時代初期の野面積みの石垣
矢穴を用いた野面積みの石垣で大久保忠世・忠綱により構築されたものと考えられる
Stone walls built in the Edo period, found from under the Akagane-mon Gate (Nozura construction stone walls)



戦国時代の住吉堀 障子堀
Sumiyoshi moat of the Warring States period with Shoji moat overlay (1467~1590)



江戸時代初期の住吉堀 障子堀
Sumiyoshi moat of the Edo period with Shoji moat overlay (1603~1680)



江戸時代前期以降の住吉堀
Sumiyoshi moat after the early Edo period (1681~)

Sumiyoshi moat separates Akagane-mon Gate at Ninomaru (second bailey) and Umayu-kuruwa Bailey. As the result of excavation and research, it was found that Sumiyoshi moat is comprised of a Shoji moat built in the Warring States period and different type of moat built in the Edo period(1603~1688). Shoji moats, which look as if Shoji screens were placed upright on the bottom, were the Hojo Clan preferred form of moats. In 1923, stone walls around the moat from the Edo period collapsed due to the Great Kanto Earthquake, but in 1993, they were reconstructed based on the excavated evidence and castle blueprints.

④ 馬屋曲輪跡

さて、ここが馬屋曲輪跡/右手に建物が見えるが、これは小田原ガイド協会事務所

[video](#)



これは馬屋曲輪跡を南東側から北西方向に見たところ/中央やや左手に銅門の屋根が見える



左手を見ると小田原ガイド協会事務所が見える/その左手には土塁がある



その土塁上に登る階段がある



雁木

Gangi

土塁上へ登るための階段。発掘調査で初めて確認され、溶結凝灰岩（小田原石・水道石・風祭石とも言われる。）製。もともと斜めに設置されていた。



馬屋曲輪跡南東隅の土塁上から北方向を見たところ/この場所には二重櫓があったという



同じく西方向を見たところ



これが小田原ガイド協会事務所



右手に説明板がある

 video



馬屋曲輪

馬屋曲輪は、L字型を呈する独立した曲輪である。周囲に石垣を築らせ、その上に土塁と堀を備え、土塁の上へと登る版木（階段）は、二重櫓両側（写真1）と南側土塁（写真2）の位置にあった。

この曲輪は、三の丸より東側は「馬出門」、南側は「南門」を経て「御茶壺曲輪」から二の丸表玄関である「綱門」へと至る重要な位置にある。曲輪の規模は、東西四十七間（約92.59m）、南北三十七間（約72.89m）であった。

曲輪内には砂利が敷かれ、「馬屋」と「大腰掛」の二棟の建物を中心に番所、切石を配した井戸などがあり、南東隅には二重櫓があった（図1）。「馬屋」と「大腰掛」は「板障」により繋がっており（百礎を用いた石列の位置）、発掘調査では、堀を境に表と裏では敷かれている石が異なっている様子が確認されている（写真3）。

また、「伝書機」の東に「伝書櫓」と呼ばれた名物のマツがあったが、幕末に失われた。なお、曲輪内にあるマツの内、四つ目垣のある老マツは写真にも写る古木である（写真4）。

馬屋櫓 (154990) - 大腰掛 (154994)

馬屋曲輪の南側の曲輪でもある土塁遺構。古文書や絵図類を見ると、徳川氏時代には存在することがわかり、元禄10年(1703)11月22日の地震で発生した大瓦葺で焼失した。発掘調査でも、この時の瓦葺の痕跡が明確に確認されている。南側の建物が「馬屋」、東側が「大腰掛」である。「馬屋」は、現存する浮城の馬屋を参考にすると、およそ14間の馬を繋ぐことができたと考えられる。「大腰掛」は、「丸腰中付御番所」とも呼ばれる宮城番の御番所であり、江戸城の「百人番所」（寛永御十代御返）、二重城の「二重馬番」（享和御中元返）のように番所でもあり、いずれも、寛永11年(1634)の幕府御定書北の上巻に照し、小田原城御定書とされたために習えられた御定書と見られ、小田原城の重要施設がうかがわれる。

なお、小田原藩の馬屋は二の丸の南側にあった。

二重櫓 (154993)

寛永25年(1648)12月26日行で、幕府より徳川氏の許可を得て作事が行われた建物である。絵図に描かれた二重櫓を見ると、櫓柱の礎石を兼ねた土塁の遺構は破壊のせい、確認できず、下層は千鳥破風を伴う屋根造りで、石葺としを備えていたことがわかる。

切石敷き戸 (154992)

百礎を積み上げた戸で、表面は岩積層状の切石で覆われていた。表面の切石は、内側は六角形を呈しており、外側は四角形となっている。六角形戸は、土塁より内側と外側の特別な戸とも言われ、この戸も徳川将軍家との関連性がうかがわれる。

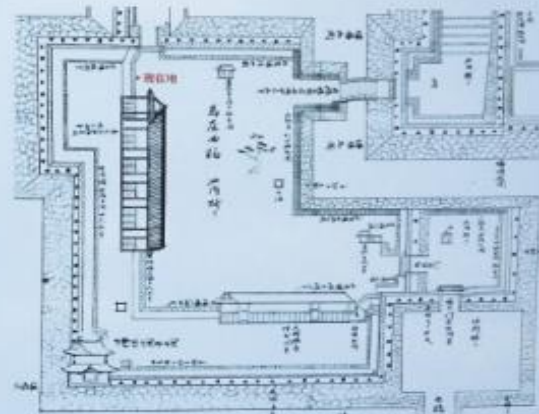


図1 「案内図」(案内庁遺構参照)

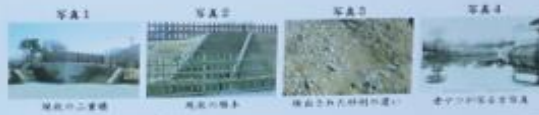


写真1 二重櫓 写真2 南側の版木 写真3 堀を境に表と裏の石列の位置 写真4 伝書機東側の老マツ

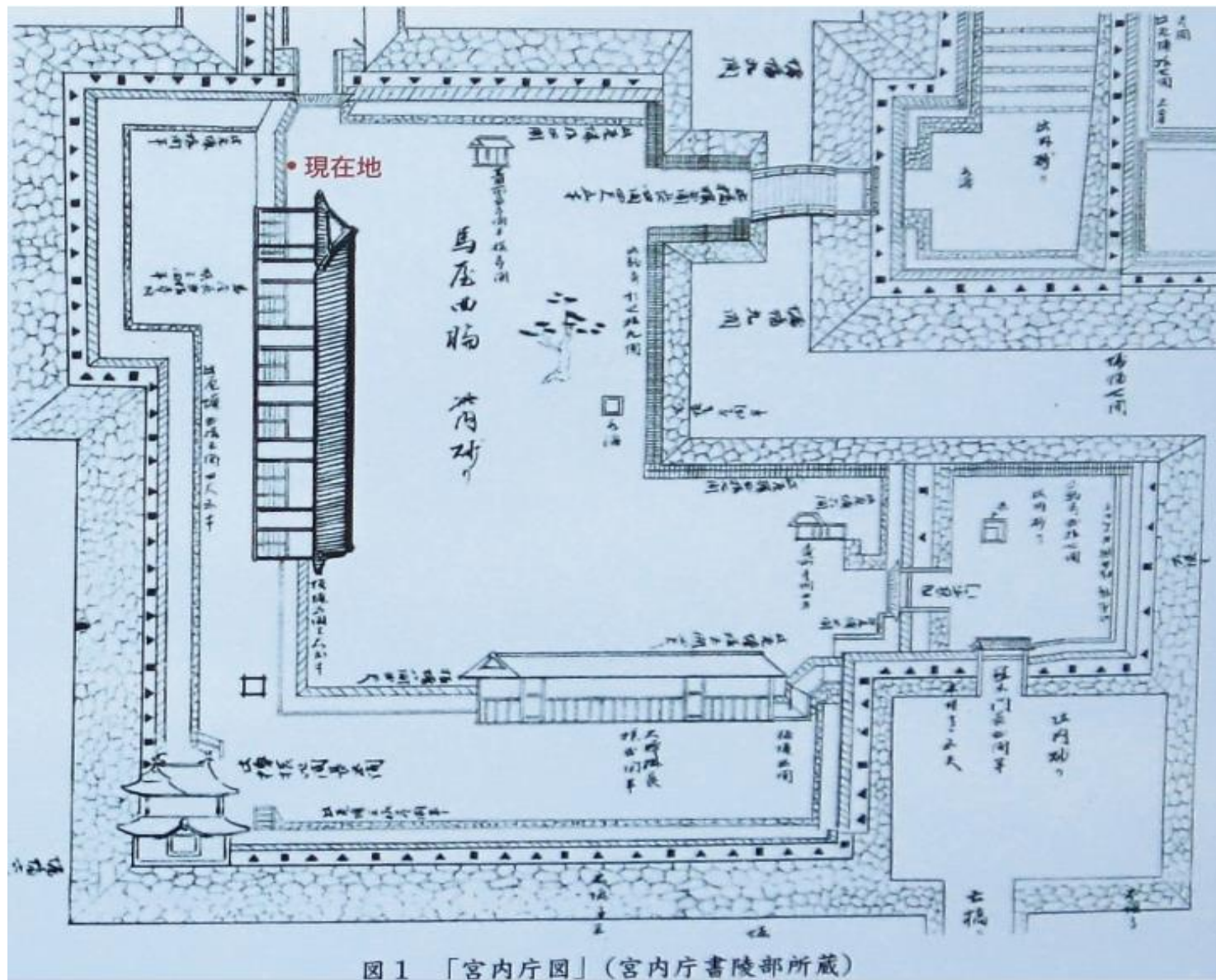


圖1 「宮内庁圖」(宮内庁書陵部所蔵)

馬屋曲輪うまやくるわは、L字型を呈する独立した曲輪である。周囲いしがきに石垣を巡らせ、その上に土塁どるいと塀へいを備え、土塁の上へと登る雁木がんぎ（階段）は、二重櫓にじゅうやぐら両側（写真1）と南側土塁（写真2）の位置にあった。

この曲輪は、三の丸より東側は「馬出門」うまだしもん、南側は「南門」を経て「御茶壺曲輪」おちゃつぼぐるわから二の丸表玄関である「銅門」あかがねもんへと至る重要な位置にある。曲輪の規模は、東西四十七間（約92.59m）、南北三十七間（約72.89m）であった。

曲輪内には砂利が敷かれ、「馬屋」うまやと「大腰掛」おおこしかけの二棟の建物を中心に番所、切石を配した井戸などがあり、南東隅には二重櫓があった（図1）。「馬屋」と「大腰掛」は「板塀」により繋つながっており（円礫えんれきを用いた石列せきれつの位置）、発掘調査では、塀を境に表と裏では敷かれている石が異なっている様子が確認されている（写真3）。

また、「住吉橋」すみよしばしの東に「住吉松」と呼ばれた名物のマツがあったが、幕末に失われた。

なお、曲輪内にあるマツの内、四つ目垣のある老マツは古写真にも写る古木である（写真4）。

馬屋跡（うまやあと）・大腰掛跡（おおこしかけあと）

馬屋曲輪の名前の由来でもある主要建物。古文書や絵図類を見ると、稲葉氏の時代には存在することがわかり、元禄16年（1703）11月22日の地震で発生した火災で焼失した。発掘調査でも、この時の火事の痕跡が明瞭に確認されている。

西側の建物が「馬屋」、東側が「大腰掛」である。「馬屋」は、現存する彦根城の馬屋を参考にすると、およそ14頭の馬を繋ぐことができたと考えられる。「大腰掛」は、「大腰かけ御番所」とも呼ばれる登城者の待機所であり、江戸城の「百人番所」（東京都千代田区）、二条城の「二条在番」（京都府中京区）のように番所でもあった。いずれも、寛永11年（1634）の將軍徳川家光の上洛に際し、小田原城が宿所とされたために整えられた特別な施設と考えられ、小田原城の重要性がうかがわれる。

なお、小田原藩の馬屋は二の丸の西側にあった。

二重櫓櫓台（にじゅうやぐらやぐらだい）

寛永20年（1643）12月26日付で、幕府より櫓新設の許可を経て作事が行われた建物である。絵図に描かれた二重櫓を見ると、雌雄の鯨瓦を乗せた上層の屋根は破風のない入母屋造り、下層は千鳥破風を伴う寄棟造りで、石落としを備えていたことがわかる。

切石敷井戸（きりいしきいど）

円礫を積み上げた井戸で、表面は溶結凝灰岩の切石で装飾されていた。表面の切石は、内側は六角形を呈しており、外側は円形となっている。六角井戸は、大陸より伝えられた特別な井戸とも言われ、この井戸も徳川將軍家との関連性がうかがわれる。

ここが「馬屋跡」



馬屋跡

Umayato

登城者が馬を繋ぐための建物。徳川将軍家来城時専用の馬屋と考えられる。

長さ 二十一間 (約 41.37m)

奥行 三間半 (約 6.895m)



小田原ガイド協会事務所の脇にもある



こちらは「大腰掛跡」



大腰掛跡

Ookoshikakeato

登城者の待機所や番所
として用いられた建物。

長さ 十二間 (約 23.64m)
奥行 三間半 (約 6.895m)



こちらは「切石敷井戸跡」



切石敷井戸

Kiriishishiki ido

円礫（安山岩）を積み上げ、上部は溶結凝灰岩（小田原石・水道石・風祭石とも言われる。）の切石で外周を円、内周を六角形に配した井戸。





さて、これは二の丸の正門にあたる内仕切門と銅門(左手)を見たところ



ここにも説明坂がある/正面は銅門



障子堀の跡も発見されたという



小田原城の障子堀。江戸時代の石垣の下から戦国時代の障子堀の跡が発見されました。

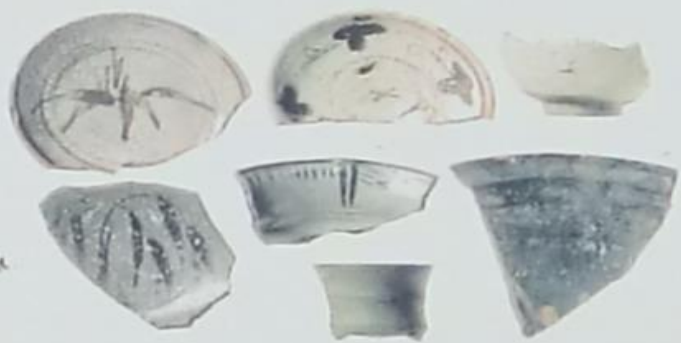
銅門と住吉堀の発掘調査

銅門や住吉堀は、昭和58年から平成4年にかけて行われた発掘調査の成果や古絵図等の資料に基づいて復原されています。この発掘調査では、江戸時代の堀や石垣だけでなく、戦国時代の井戸や水路、障子堀と呼ばれる堀などが発見され、戦国時代から江戸時代にかけて、小田原城が何度も造り替えられていたことがわかりました。

Odawara Jo Sumiyoshi Hori

(Odawara Castle Sumiyoshi Moat)

The moat was excavated by archaeologists between 1983 and 1992. They uncovered a stone wall and the remains on an earlier moat from the Edo Period (1603-1867), and a well and a drainage canal from the Sengoku Period (15th and 16th centuries). It was also learned that Odawara Castle had been renovated several times between the Sengoku Period and the Edo Period.



江戸時代初期の陶磁器



軒丸瓦



寛永通寶などの古銭



墨壺、鉄砲玉、きせるの煙管、鎧の小札

発掘調査の出土品

⑤ 御茶壺曲輪跡

これはそこから左手方向を見たところで、前方は御茶壺曲輪跡/東側から西方向を見たところ

 [video](#)



これは御茶壺曲輪跡を北側から南方向に見たところ



おちゃつぽぐらあと

小田原城 御茶壺蔵跡

江戸時代には、幕府御用の茶壺を宇治（京都）から江戸まで搬送する茶壺道中が行われていました。

このあたりは、その一行が小田原宿に宿泊する際に、茶壺を収納した御茶壺蔵があったところでした。

これは南西側から北東方向に見たところで、左手のマウンドは土塁

[video](#)



これは西側から東方向に見たところ/向こうは馬屋曲輪跡



これは御茶壺曲輪跡のすぐ北西に位置する小田原市郷土文化館で、この辺りは南曲輪跡のエリアになる



さて、銅門へと内仕切門に架かる「住吉橋」へと進もう

 [video](#)



住吉橋から左手に御茶壺曲輪跡を見たところ



同じく、右手に馬屋曲輪跡を見たところ



これは内仕切門を潜って振り返って見たところ

[video](#)



⑥ 銅門

これが銅門(渡櫓門)/渡櫓門、内仕切門と土塀で周囲を囲む枡形門の構造となっている

[video](#)



扉手前の頭上は「石落とし」となっている

 [video](#)



銅門(渡櫓門)を潜って振り返って枳形門の構造を見たところ



少し退いて見たところ

 [video](#)



あかがねもん
銅 門
Akaganemon gate

江戸時代の二の丸正門に位置づけられる門です。この門を通り本丸や天守へと進むようになっていました。

枅形ますかたという形式の門で、櫓門やぐらもんと内仕切門の2つの門と、これをつなぐ石垣と土塀で構成されます。銅門の名は、扉の飾り金具に銅を使用していたことからその名がついたといわれています。

地震などによる被害を度々受けながらもその都度修理がなされ、江戸末期まで維持されていましたが、明治時代に入りはいしじょう廃城となった後の明治5年(1872)に解体されました。

現在の銅門は、発掘調査の成果や絵図、古写真などを参考に平成9年(1997)に古来の工法により復元しました。銅門の梁はりにはマツ、柱と扉にはヒノキが使われています。

Akaganemon gate took the position as the front gate of outer citadel in Edo era. The gate was carefully restored by using ancient construction method in the 9th year of Heisei era (1997)

2019.03小田原城総合管理事務所

銅門は、小田原城二の丸の表門にあたる^{まさぐた}櫓形形式の城門で、^{わたりのやぐら}渡櫓の門扉や鏡柱に耐火を兼ねた銅の装飾がなされていたことから、この名で呼ばれています。馬屋曲輪から住吉橋を渡って、櫓形正面の埋門形式の「内仕切門」^{うちしきりもん}を潜って櫓形内部に入ります。櫓形を西に折れると「銅門渡櫓門」となります。

渡櫓門は、幅約6m、長さ約23m、高さ約12mの規模で、渡櫓には「石落とし」と呼ばれる敵を撃退するための仕掛けが設けられていました。

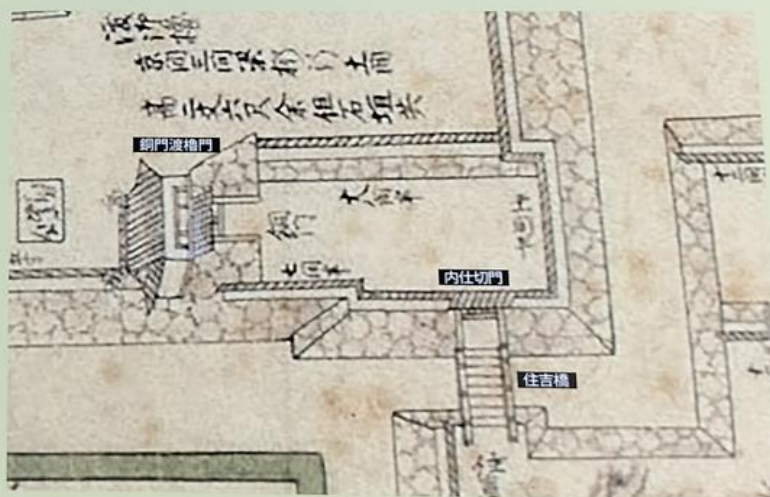
銅門は、明治5年(1872)に解体されましたが、発掘調査により石垣の位置が明らかになり、城絵図や古写真などから復元設計が検討されて、平成5~7年(1993~1995)にかけて櫓形や櫓台石垣が、平成8、9年(1996、1997)にかけて渡櫓門や土塀が、日本古来の伝統的な工法で復元されました。

Akagane-mon Gate, located in front of Ninomaru (Second bailey), is a gate constructed in Masugata style which consists of a square courtyard enclosed by earthen walls and two gates, Watari-yagura-mon Gate (a gate with a roofed passage turret) and Uchi-shikiri-mon Gate. The doors of Akagane-mon Gate were decorated with akagane (copper), the origin of its name. Watari-yagura was equipped with a feature called Ishiotoshi, a place to fend off attacks by dropping stones. In 1997, the gate was restored using traditional construction methods.



明治5年に銅門が解体される直前の写真で、櫓門の屋根や土塀の傷みが激しく、小田原藩が城を維持できなくなった様子を示しています。

Dilapidated Akagane-mon Gate just before dismantling in 1872



文久図に描かれた江戸時代末期の銅門と住吉橋

Akagane-mon Gate and Sumiyoshi-bashi Bridge drawn circa 1861

銅門は、住吉堀の復元事業と併せて昭和58年(1983)から平成5年(1993)まで発掘調査が行われた後、平成5～7年(1993～1995)にかけて、櫓形や櫓台石垣復元工事が、平成8、9年(1996、1997)にかけて、渡櫓門や土塀の復元工事が、日本古来の伝統的な工法で行われました。

石垣の復元工事には、関東大震災で住吉堀に崩落した石材に加え、角石に真鶴産小松石(安山岩)平石に、蔵王山系安山岩が使われています。

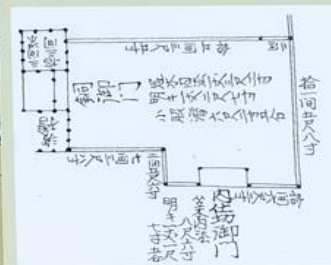
建築工事は、小田原市建築協同組合が受け負い、復元にあたっては、宮大工の芹澤伸明氏が棟梁を務め、市内の大工職人や近隣の左官職人らの匠の技が結集されました。

復元に使われた木材のうち、鏡柱など14本の檜材は、ラオスから輸入しています。また、天井の大梁2本は、国産の黒松を使用し、丸い刃が付いたハマグリ斬により、鱗のような風合いの加工がされています。これらの檜や松は樹齢200年を超える大径木が使われています。

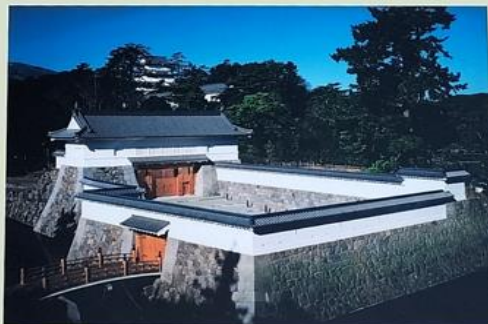
Stone walls in the Masugata (a square courtyard) of Akagane-mon Gate were restored from 1993 to 1995 first, followed by the restoration of Yagura-mon (a gate with turret). The restoration of the stone walls and Yagura-mon were done using traditional construction methods. 14 pillars of the gate were restored with Hinoki (Cypress) imported from Laos. Two ceiling girders are made from Japanese black pine with a fish scale texture on the surface carved by Hamaguri Chouna (hatchet with a round, clamshell-shaped blade).



宮内庁に描かれた江戸時代前期の銅門
Akagane-mon Gate drawn circa 1697
宮内庁書陵部蔵



小田原城並見附図に描かれた銅門の規模
Size of Akagane-mon Gate drawn circa 19c



竣工時の銅門
After completion Akagane-mon Gate



渡櫓内部
Inside the Yagura (turret)



土塀の左官工事
Plastering of the earthen walls



渡櫓の屋根工事
Construction of the Yagura ceiling



大扉の銅板設置工事
Copper plate construction of the large door

⑦ 二の丸跡

銅門を抜けるとそこは二の丸跡/正面前方に天守が見える



史跡
小田原城跡

二の丸跡

The site of second citadel of Odawara castle

江戸時代、多くのお城では藩主の住まいは本丸にありました。しかし、小田原城の本丸には徳川將軍家のための御殿があったため、小田原藩主の住まいは二の丸にありました。

二の丸の建物は「二の丸御屋形」と呼ばれ、藩主の住まいのほか、藩の政治を司る政庁としての役割がありました。

二の丸御屋形は、寛永10年(1632)の寛永小田原大地震で被災した後に大規模に整備され、唐門や能舞台を備えた御殿造りの壮麗な建物となりました。しかし、元禄16年(1703)の地震により倒壊・炎上したことが、発掘調査でも確認されています。その後、規模を縮小して再建されますが、幕末に至って幕府老中や將軍家の上洛が再開されると拡張され、本丸御殿に代わる將軍家宿所としても用いられました。

明治に入り廃城となった後、同34年(1901)に御用邸が建て替えられましたが、大正12年(1923)の関東大震災でほぼ全壊しました。そして、その後、昭和4年(1929)に小田原第二尋常高等小学校(後の城内小学校)が建設されました。平成4年(1992)に小学校統合に伴い城外へ移転しましたが、残った旧講堂は歴史見聞館として使われています。



図1 江戸時代の小田原城復元模式図

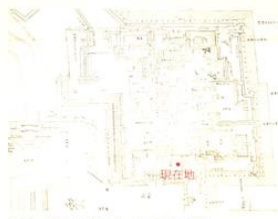


図2 「宮内庁」二の丸部分
(宮内庁書陵部蔵)

小田原市観光アプリケーション
ARポイント
[Travel App for Odawara City] Point of Virtual History Guide

三代 北条氏謙
二の丸御殿
a Palace in Ninomaru

この丸御殿の外観を再現しています。

AR機能の使い方
1. メイン画面「バーチャル歴史探検」をタップ
2. 「表示施設設定」をタップ
3. 「小田原城 二の丸御殿」のみにチェックし「設定」をタップ
4. このポイントだけが表示されます。

ダウンロード無料
Free Download

日本語版 ENGLISH
ARポイント ARポイント
ARポイント ARポイント

ARポイント ARポイント
ARポイント ARポイント

2018.3 小田原城総合管理事務所

説明坂が立っている





国指定史跡小田原城跡

二の丸御殿跡

指定 昭和13年8月8日
昭和34年5月29日
昭和52年5月4日

江戸時代の小田原城には、将軍の旅宿専用の「本丸御殿」と、藩主の居館や行政を行う政庁としての役割をもった「二の丸御殿」の二つの御殿がありました。

「二の丸御殿」は、三代将軍家光が上洛のおり小田原城に止宿した寛永年間(1624~44)の頃が最も壮麗で、能舞台や唐門も備えた立派なものでした。しかし、元禄16年(1703)に起きた大地震により小田原城は甚大な被害を受け、「二の丸御殿」も倒壊し炎上してしまいました。その後再建され、徐々に増築されたものの、以前の姿には到底及ばないものでした。

平成9・10年には、この「二の丸御殿跡」で試掘調査が行われ、元禄の大地震で真赤に焼けた土と前期の御殿の礎石や屋根に葺かれていた瓦などが出土しました。また、後期の御殿は前期の焼け跡を一旦埋め立てて新たに建てられたこともわかりました。

小田原市教育委員会



宮内庁図に描かれた江戸時代前期の二の丸御殿



本丸・二の丸の縄張りと二の丸御殿の位置



発掘調査で確認された前期の御殿の一部(玄關付近)

ここも二の丸跡のエリア



そこから銅門を見たところ

 [video](#)



さて、こんなものもあった



銅門 土塀模型

この土塀模型は、銅門の建設を行うに際し、事前に製作したものです。

銅門は、江戸時代の工法、技術を採用して、いるため、使用する木材や白壁の材料である土の収縮や乾き具合などを確認する必要があり、この模型は重要な役割を果たしました。

皆様に古い建築の工法をご理解いただくため、銅門の完成を期に小田原市建築協同組合より寄贈を受けましたものです。

小田原市



伝銅門礎石

この石は、銅門で用いられていたと
考えられている礎石です。

使用状況は、復元した銅門をご覧
いただくとわかりますが、石の大半を
土中に埋め、側面を斜めに加工した
部分を橋台の石垣に合わせて設置し
ます。そして、ホソ穴に柱材を固定し
て礎石としました。

箱根外輪山の安山岩製で、ところ
どころに石を割る際に関けられた
「矢穴」が確認できます。

手前の石は約一・六し、真の石は
約一・八しある立派なものです。





さて、ここは二の丸跡にある「歴史見聞館」

 [video](#)



さて、いよいよ本丸跡へと進もう/前方は常盤木橋と階段の上の多聞櫓

[video](#)



説明坂が立っている

小田原城と小田原合戦攻防図



天正 18 年 (1590) 4 月、戦国大名小田原北条氏の本拠地小田原城は、全国統一を推し進める豊臣秀吉の大軍に包囲されました。

●時代を画した小田原合戦

織田信長の死後、北条氏は従属を迫る豊臣秀吉と交渉を続ける一方、天正 15 年 (1587) からは、決戦に備えて小田原の城と城下を囲んで堀と土塁を構築しました(総構)。また、各地の支城を整備して迎撃態勢を整えましたが、豊臣勢の進軍は早く、次々に支城は落とされていきました。豊臣軍は武器や食料の調達・確保にも長け、豊富な物量を背景におよそ 15 万ともいわれる軍勢で小田原城を包囲しました。そして、3 ヶ月の籠城の末、北条氏直は小田原城開城を決意します。合戦の終結により、豊臣秀吉による天下統一が成りました。

In April 1590, Odawara Castle, the base of a warring states daimyo Odawara Hojo family, was besieged by the large force of Toyotomi Hideyoshi who was making progress towards unifying the entire Japan.

●Odawara battle marked an epoch

After the Oda Nobunaga's death, the Hojo family continued to negotiate with Toyotomi Hideyoshi who was trying to subordinate their family. While at the same time, starting from 1587, they built moats and the earthen walls surrounding the Odawara Castle and the castle town ("Sogamae") to prepare for the final war. They also made preparations for interception by developing their branch castles in various places. However, the Toyotomi troops advanced so quickly that the branch castles fell one by one. As the Toyotomi's army was an expert also in procuring and securing of weapons and foods, it surrounded the Odawara Castle with its force said to have been approximately 150,000, relying on the abundant supply of materials. And, after being sieged for 3 months, Hojo Ujinao decided to open the Odawara Castle. Upon ending the battle, the unification of Japan by Toyotomi Hideyoshi was achieved.

天正 18 年 (1590) 4 月、戦国大名小田原北条氏の本拠地小田原城、被敵力推し進める豊臣秀吉大軍に包囲。

●新时代的的小田原合戦

織田信長死後、北条氏持續與織田其從屬的豊臣秀吉進行交渉。同時、也為預備決戰的到來、於天正 15 年 (1587) 開始構築圍繞小田原城及其城下町的溝渠及土壘(總構)、雖然對各支城進行修繕、整備、展現出迎擊的架式、但在豊臣勢力迅速進軍下、支城相繼的陷落。豊臣軍對武器、食料的確保與調度有長點準備、以豐富、大量的物資為後盾、號稱 15 萬的軍勢包圍了小田原城、接著、在 3 個月圍城的最後、北條氏直下定決心、小田原城開城投降、隨著合戰的終結、由豊臣秀吉完成了天下統一。

●戦闘の経過

天正 18 年 (1590) 3 月 1 日、豊臣秀吉は小田原に向け京を進発しました。東海道を進む本隊は、山中城 (三島市) を突破し、4 月中頃に小田原城を包囲しました。また、毛利輝元 (本人は京都留守居) 等の水軍が物資輸送にあたり、前田利家率いる北国勢が上野国 (群馬県) 方面から北関東に侵攻しました。

これに対して氏直は小田原城に主力を投入しつつ支城の防備を固めます。長期戦を覚悟した秀吉は、早川 (小田原市早川) 西方の山上に陣城を構え、6 月 26 日に本陣を移します。本隊の猛攻に耐え小田原城総構の防衛線を死守するも、別働隊に主要な支城を撃破された氏直は、これ以上の戦闘継続は無益と判断し、7 月 5 日に城を出て降伏しました。

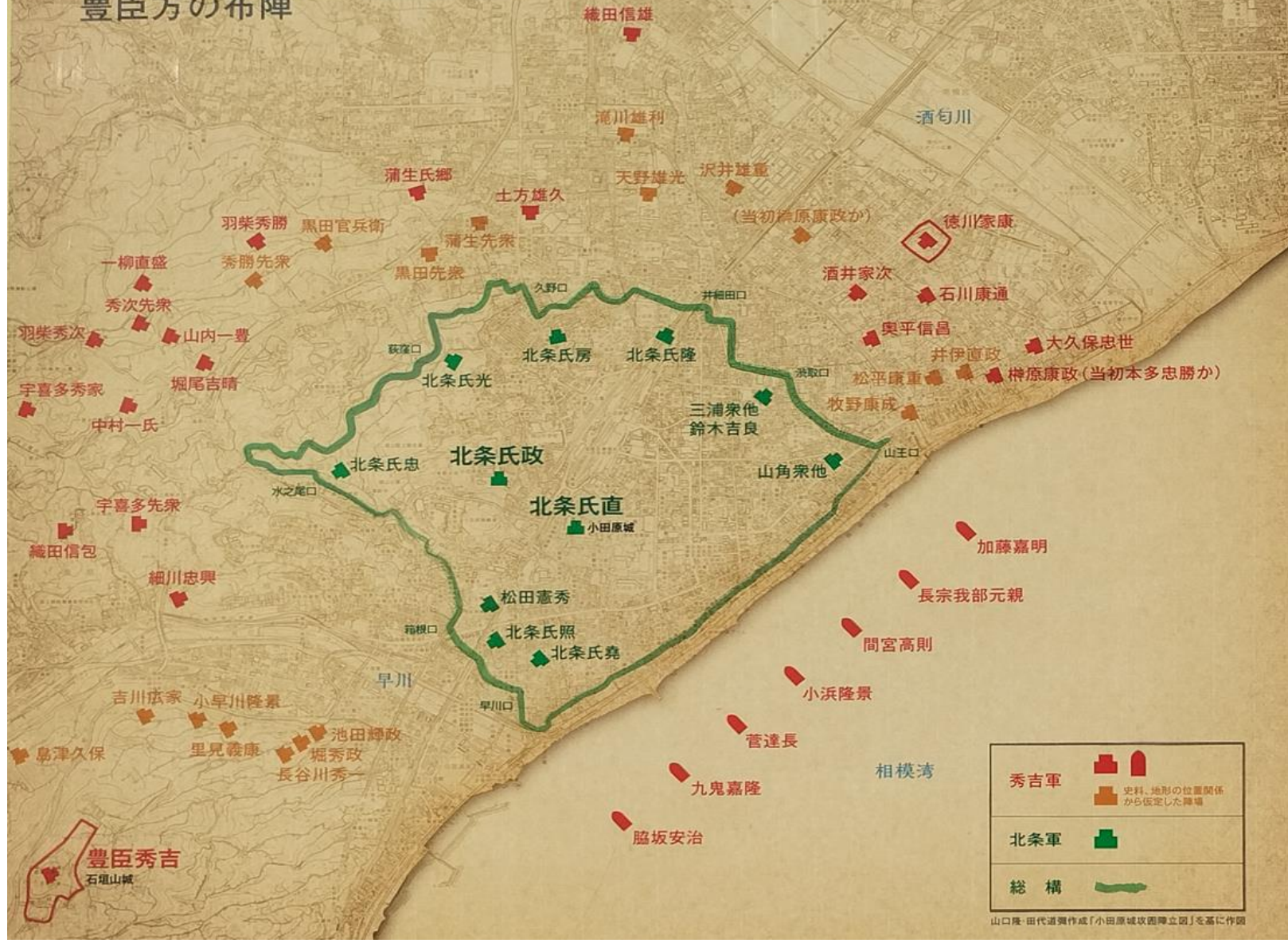
●小田原合戦の意味

北条氏は、中世的ではあるものの、優れた領国経営を行っていました。そして、その本城である小田原城は、堀と土塁で城と城下を取り囲む戦国最大規模の中世城郭で、「土の城」でした。かたや秀吉が本陣を構えた石垣山城は、東国で最初に築かれた総石垣の近世城郭であり「石の城」でした。

北条氏の滅亡により秀吉の天下統一が達成され、戦国時代は終わりました。小田原合戦は、日本の歴史が中世から近世へと動く、歴史の転換点となった出来事だといえるでしょう。また、小田原合戦後、参陣した武將は国元に戻ります。そして、自国を整備し、城郭の普請を行いました。普請された城郭の中には、駿府城 (静岡市) や御土居 (京都市)、岡山城 (岡山市) など、総構に代表される堅固な小田原城の姿を参考に行われたといわれているものもあります。



豊臣方の布陣



⑧ 本丸東堀跡

ここにもある/左手は本丸東堀跡



国指定史跡 小田原城跡

本丸東堀跡

Ruin of Hommaru Moat

江戸時代の小田原城は、本丸を堀が囲んでいました。この絵図によると、堀は二の丸堀とつながる水堀となっています。発掘調査によって、この本丸東堀の位置が確認され、最も幅があるところでは20m以上もあることがわかりました。そこでこのたび、植木と盛り土により堀の形を表現し、整備しました。この堀を渡るために架けられていたのが常盤木橋で、水鳥の池は堀の名残と言えます。

小田原市教育委員会



文久図 小田原城天守閣蔵

常盤木橋の右手を見たところ

 [video](#)



同じく、左手を見たところ

 [video](#)



江戸時代の小田原城本丸の周囲は、堀に囲まれていました。本丸の東側を画する堀を本丸東堀と呼んでいます。

本丸東堀は、発掘調査の結果、幅 20m 以上の規模をもつ水堀で、現在よりも 5m 以上深さがあったと想定されています。現在は、堀の形を平面表示しています。文久図には、この場所に本丸と二の丸をつなぐ木製の橋が描かれており、「常盤木橋」と名付けられていたことが分かります。

これから先の本丸に出入りするには、この常盤木橋を渡り常盤木門から入るルートと、北側に位置する相生橋を渡り、鉄門から入るルートがあり、この常盤木門から入るルートが正面口になります。

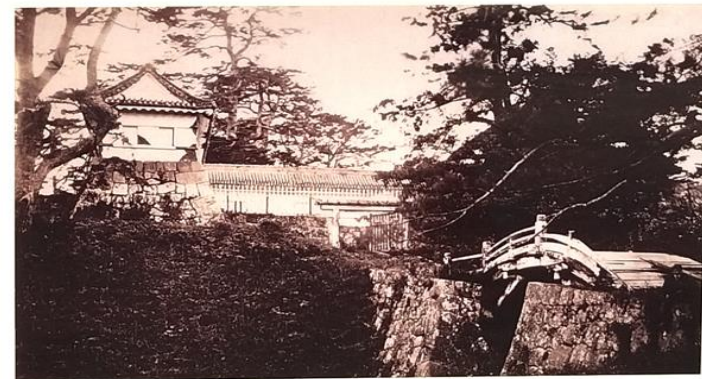
常盤木橋は、関東大震災で土台の石垣ごとと崩れて失われており、現在の橋は、2 m 以上低い位置に再現されたものです。

常盤木橋は、明治 3 年に撮影された写真が残されており、当時の様子を知ることができます。

This bridge is called Tokiwagi-bashi. It was a wooden bridge in the Edo period, and there was a moat filled with water underneath. The moat surrounded Honmaru (Main bailey), the central part of the Odawara castle. The flowerbed you see under the bridge is where the moat used to be.



文久図に描かれた江戸時代末期の常盤木橋と本丸東堀
Tokiwagi-bashi Bridge and Honmaru East Moat drawn circa 1861



明治 3 年の常盤木門と常盤木橋
Tokiwagi-mon Gate and Tokiwagi-bashi Bridge circa 1870


多聞櫓(正面と左手)/右手に常盤木門(渡り櫓)がある/ここも枡形門形式となっている

 [video](#)



⑨ 常盤木門

これが常盤木門

 [video](#)



と き わ ぎ も ん 常 盤 木 門

常盤木門は、江戸時代の本丸の正面に位置し、小田原城の城門の中でも大きく堅固に造られていました。古絵図などの記録から、江戸時代初期には設けられていたことが分かっています。元禄16年(1703年)の元禄地震で崩壊した後、宝永3年(1706年)に、多間櫓と渡櫓から構成される柵形門形式で再建されましたが、明治3年(1870年)の小田原城廃城の際に解体撤去されました。

常盤木とは常緑樹のことで、松の木が常に緑色をたたえて何十年も生長することになぞらえ、小田原城が永久不変に繁栄することを願って常盤木門と名付けられたといわれています。江戸時代には、常盤木門に隣接して、戦国時代からの「本丸の七本松」があり、現在もそのうちの一本が本丸の「巨松」として残っています。現在の常盤木門は、市制30周年事業として昭和46年(1971年)に再建しました。

Tokiwagimon gate was situated in front of Honmaru (inner citadel) in Edo period, among the gate in Odawara Castle at that time, Tokiwagimon gate was huge and strongly built, Odawara Castle was abandoned in Meiji 3rd (1870) and Tokiwagimon gate was demolished at the same time.

The Tokiwagimon gate now was reconstructed in Showa 46th (1971) in order to celebrate 30th anniversary of the municipal system of Odawara city.

2019.03小田原城総合管理事務所

「常盤木門」と記された標柱と説明坂がある

 [video](#)



史跡 小田原城跡

おだわらじょう ときわぎもん 小田原城 常盤木門 Odawara Castle Tokiwagi-mon Gate

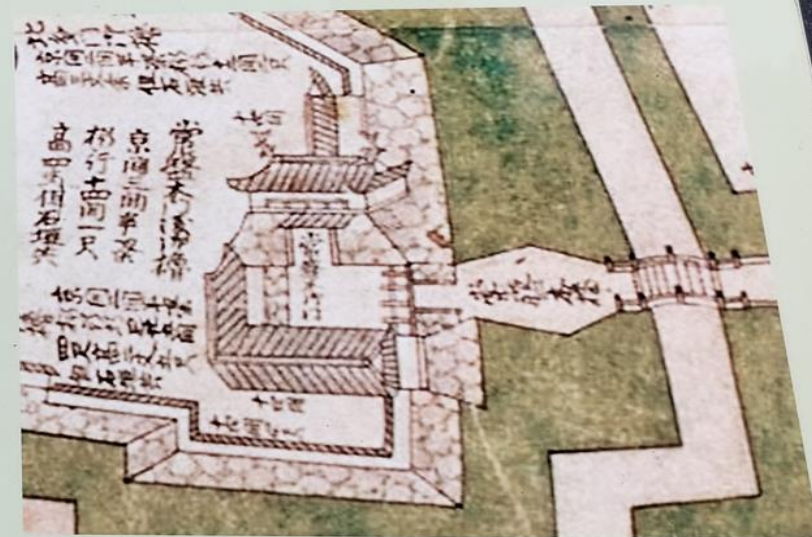
A gate with the name of eternal prosperity so that the evergreen tree is always green

本丸には、常盤木門と鉄門というふたつの門があり、本丸にあった徳川將軍家の御殿を守っていました。そのうち、この常盤木門が小田原城の本丸正門です。

門の名前である「常盤木」とは常緑樹のことを指し、戦国時代から本丸に存在した七本の松(通称七本松、現在は1本「巨松」のみが残る)に由来しています。命名には、常に緑色の葉をたたえる松のように、小田原城と小田原が永遠不滅に繁栄しますようにとの願いが込められていると言われています。江戸時代初期からありましたが、元禄16年(1703)の地震で倒壊・炎上し、宝永3年(1706)に渡櫓門に南多間櫓・北多間櫓が付随する枡形門形式で再建されました(「文久図」、右図)。

明治3年(1870)、小田原城の廃城とともに解体されましたが、昭和46年(1971)に小田原市制30周年事業の一環として渡櫓門と南多間櫓を再建しました。

江戸時代には、櫓や櫓門の内部は倉庫や武具保管庫として用いられていました。現在、常盤木門の渡櫓は「常盤木門SAMURAI館」となり、往時のように武具・甲冑を展示しています。また、日本で唯一の甲冑に投影したプロジェクションマッピングを上映しています。



During the Edo Period(1603-1867), various types of castle gates stood on the castle grounds. The gate which is located in the east corner of the central bailey was the main entrance and the most strategic place for the defense of the castle. This gate was named Tokiwagi-mon ("Evergreen"), because there were old pine trees nearby. The feudal lord believed that the pine trees would stand forever, and wished the same for the castle.

At the beginning of the Meiji Period(1870), most of structures on the castle grounds including the original gate and the donjon were destroyed. The present gate was rebuilt in 1971 and the donjon was rebuilt in 1960.

The Tokiwagi-mon gate Samurai gallery is currently displaying swords and armor. In addition Projection Mapping is also shown.

2020.03小田原城総合管理事務所

これは常盤木門を潜って振り返って見たところ

 [video](#)



⑩ 本丸跡

さて、これが本丸跡/左手に説明坂がある

 video



史跡 小田原城跡

本丸跡

The site of inner citadel of Odawara castle

小田原城の本丸は、東西83間(約150m)、南北63間(114m)ほどの規模があり、その西端に天守台、中央には本丸御殿がありました。本丸の周囲には石垣と土塀がめぐらされ、東と北の2箇所に門が設けられていました。東側の門は、本丸正門にあたる常盤木門、北側は裏門で鉄門と呼ばれていました。

本丸御殿は、他のお城では藩主居館として用いられます。しかし、小田原城では徳川將軍家の宿所としての役割を持っており、寛永10年(1632)の寛永小田原大地震で倒壊したため、翌年に上洛する三代將軍徳川家光の宿所として再建されました。

その後、將軍家の上洛が途絶えた後も維持されていましたが、元禄16年(1703)の地震により倒壊・焼失してからは、再建されることはありませんでした。

現在、本丸の東南には「巨松」と呼ばれる天然記念物のマツの巨木があります。元禄年間(1688~1704)の小田原城の姿を描いた「寛永年間小田原城廓総図(通称「宮内庁図」)」には、「七本松」と呼ばれた松の姿が描かれていますが、巨松は「七本松」最後の一本で、樹齡は400年を越えています。



図1 江戸時代の小田原城復元模式図

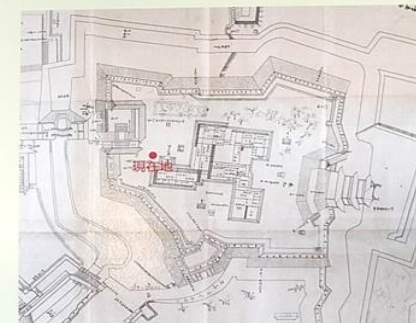


図2 「宮内庁図」本丸部分(宮内庁書陵部蔵)



図3 発掘調査で発見された「七本松」を囲う石垣



図4 発掘調査で発見された焼土

小田原市観光アプリケーション
ARポイント
[Travel App for Odawara City] Point of Virtual History Guide

五代 北条氏直
小田原
ODAWARA
さんぽ

本丸御殿
a Palace in Honmaru

本丸御殿の外観及び内部を再現しています。

AR機能の使い方
①メイン画面
「バーチャル歴史探索」を
タップ
②「表示施設設定」をタップ
③「小田原城 本丸御殿」の
みにチェックし「設定」を
タップ
④このポイントだけが表示
されます。

ダウンロード無料
Free Download

日本語版
English
Simplified Chinese
Traditional Chinese

2018.3 © 小田原市観光局

2018.3 小田原城総合管理事務所



前方が復興天守

[video](#)



小田原城天守は、外観三重内部四階の天守櫓に、入口にあたる付櫓、さらに両者をつなぐ続櫓で構成されています。

江戸時代の城絵図によると、初代天守は、慶長年間(1596~1615)に描かれた望楼型天守(加藤図)、二代目天守は、寛永10年(1633)の寛永地震後に復興された層塔型天守(正保図)、三代目天守は、元禄16年(1703)の元禄地震後の宝永3年(1706)に復興された層塔型天守(文久図)と考えられます。この三代目宝永天守は、その後、江戸時代を通じて存続しましたが、明治3年(1870)に解体されました。

現在の天守閣は、昭和25年(1950)から3年間かけて天守台石垣の復興工事が行われ、その後、観覧車が設置されるなどしましたが、昭和35年(1960)に小田原市民らの力により、鉄筋コンクリートで復興されました。

そして、平成28年(2016)に「平成の大改修」として、耐震補強と大規模な展示リニューアルが行われました。

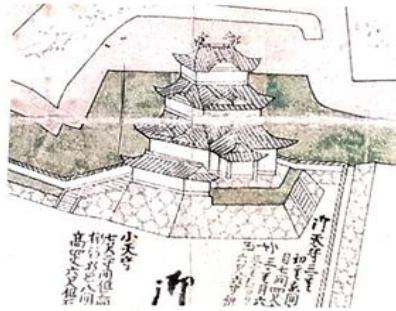
Odawara castle tower consisted of a three-tiered, four-storied tenshu-yagura (castle keep), a tsuke-yagura (attached turret) and a tsuzuki-yagura (continuation turret). The original castle tower was Boro-gata (watchtower set on top) as it appears on the "Kato-zu" castle drawing, which was drawn in the Keicho period (1596-1615). Then, it was reconstructed as Soto-gata 'layered tower' after the Kanei earthquake of 1633, as seen on the "Shoho-zu" drawing. Following the Genroku earthquake of 703, the Soto-gata castle tower was rebuilt in 1706, as it appears on the "Bunkyu-zu" drawing. This castle tower remained throughout the Edo period, but was dismantled in 1870. The current Odawara castle tower was built in 1960 with reinforced concrete. In 2016, seismic retrofitting was completed and museum exhibits were renovated.



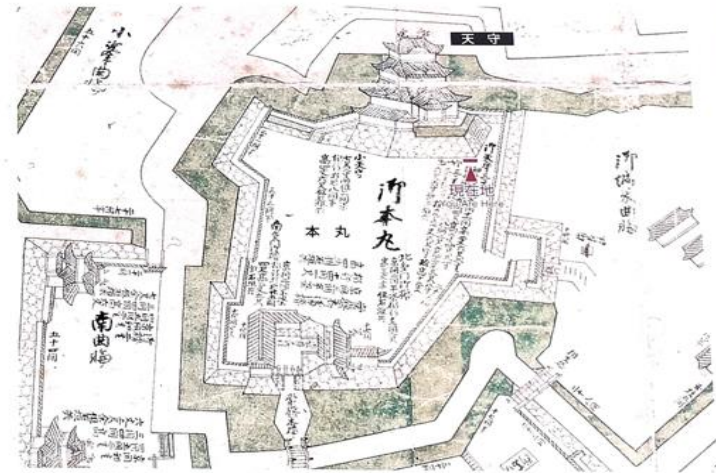
初代 望楼型天守 (加藤図)
Boro-gata castle tower drawn circa 1614(Kato-zu)



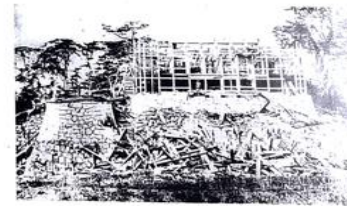
二代目 層塔型天守 (正保図) 国立公文書館蔵
Soto-gata castle tower drawn circa 1645(Shoho-zu)



三代目 層塔型天守 (文久図)
Soto-gata castle tower drawn circa 1861(Bunkyu-zu)



文久図に描かれた江戸時代末期の本丸と天守
Honmaru and the castle tower circa 1861



明治3年 解体中の天守
Castle tower demolition in 1870



明治26年 天守台に建立された大久保神社
Okubo shrine built in the castle tower in 1893



昭和30年頃 天守台の観覧車
Ferris wheel at the ruin of the castle tower circa 1955



昭和35年 天守閣復興工事
Castle tower reconstruction in 1960



左手の急な長い階段が天守への入口

 video



石垣が二段になっている/その上の突き出た出窓は「石落とし」を備えている



ここから天守の内部に入る

 video



最上階から南方向を見たところ



唐破風部分の軒下



ここは本丸跡の北側にある「鉄門跡」



⑪ 報徳二宮神社

さて、これは本丸跡から南に下りたところにある報徳二宮神社の城址口鳥居



報徳二宮神社 城址口鳥居

この鳥居は報徳二宮神社創建百二十周年記念事業として伊勢の神宮より第六十二回神宮式年遷宮での古材を拝領し建立したものです。根継ぎ材には小田原市久野の山林から奉納された檜が使用されています。

また、建立にあたっては「みんなの鳥居プロジェクト」として、報徳二宮神社の御祭神 二宮尊徳翁の教えである一円融合の精神のもと、小田原の「木の文化」に携わる人びとの協力と、数多の崇敬者の寄進により実現したものであります。

日本には世界に誇れる大切な文化があります。

又、この地域にも、大切な文化や歴史があるのであります。

戦後七十年の節目を迎えた、この時代の転換期にあたり日本人のこのころと、地域の大切な文化や技術が、後世に継承され、心豊かに暮らせる社会が実現することを願ひ、みんなの思いを重ねて、この鳥居を建立しました。

平成二十七年四月十五日

報徳二宮神社創建百二十周年記念事業奉賛会

「協力」

小田原大工職組合

神奈川土建西相支部

小田原建築板金組合

小田原市森林組合

小田原地区木材業協同組合

小田原林青会

「施工」

報徳二宮神社 報友会

内藤工務店

芹澤 毅

遠山板金

竹広林業

大山商店

これは小峰曲輪跡(左手)の北側に残る堀跡/報徳二宮神社境内に所在する



小田原城小峯曲輪北堀

報徳二宮神社の境内は、戦国時代北条氏
によつて造成された古い曲輪にあたります。
江戸時代前期は雷曲輪、後期には小峯曲輪
と呼ばれていました。雷曲輪は全国にも例
のない面白い名称ですが、由来ははっきり
しません。小峯は天守閣の裏手、西側一帯
を指す古い地名なので、これにちなんだも
のでしょう。

目の前の空堀は、左手の小峯曲輪を囲む
堀の北側の部分です。石垣を用いない土塁
と空堀だけの、戦国時代の城の原形をよく
留めている貴重な遺構です。堀幅は神社境
内の土塁から二メートル、深さは現状で
五メートル余りですが、実際の堀底はさら
に二、三メートルは深くなるでしょう。

また堀底には、堀障子と呼ばれる畝状の
仕切が設けられていたと考えられています。
正面右手急斜面の高台は、本丸の裏手を
守る曲輪状地形の屏風岩(現在遊園地)です。
小峯曲輪北堀は、今公園路となっている屏
風岩と本丸との間の本丸西堀と、神社裏門
出口の辺りで合流し、本丸の南麓、現在の
市立図書館(南曲輪)前から、常盤木門下の
九輪橋の方へ向つていました。

報徳二宮神社

こんな感じ



ここが報徳二宮神社の参道入口/一ノ鳥居



参道を進むと二ノ鳥居が立っている



二宮尊徳翁の像



これは三ノ鳥居/正面が社殿(神明造り)



二宮金次郎像



その傍に別の説明坂もあった/後は南堀に浮かぶ「大賀ハス」/南堀の向こうは南曲輪跡

 [video](#)



南曲輪の西南隅にも二重櫓があったようだ

小田原城南曲輪西南二重櫓

Double Watchtower of Southern Bailey of Odawara Castle

近代以降の小田原城

小田原城は、明治3年(1870)に廃城となり、明治34年(1901)には、二の丸内に御用邸が建設されました。しかし、大正12年(1923)の関東大震災では石垣が崩壊し、壊滅的な被害を受けました。御用邸は廃止され、二の丸北側一帯や住吉堀などが埋め立てられました。昭和4年(1929)、銅門一帯には、小田原高等女学校(小田原城内高等学校)や町立第二尋常小学校(城内小学校一三の丸小学校)が建設されました。昭和初期には、二の丸の石垣などが復旧されましたが、第二次大戦後は、本丸周辺には動物園や遊園地が、御用米曲輪には市営小田原球場が設置され、城跡としての景観は失われていました。

小田原城の史跡整備

小田原城は、明治13年(1878)に初めて国史跡に指定され、本丸・二の丸の大部分と八幡山古郭や三の丸外郭、堀溝の一部が国の史跡になっています。

昭和35年(1960)に天守閣、昭和46年(1971)に常盤木門が復興されましたが、史跡内に多くの施設が残ったままでした。

昭和51年より市庁舎をはじめとした施設移転が進められ、昭和58年(1983)からは、本格的に史跡整備に取り組み、二の丸住吉堀の発掘調査に着手した。平成2年(1990)には、住吉堀石垣と住吉堀が復元され、平成9年(1997)に銅門枳形が復元されました。

そして、平成21年(2009)には、馬出門が復元され、近世小田原城の大手筋からの登城ルートの歴史的景観がよみがえってきました。

小田原城は、北条氏の中世城郭と江戸時代の近世城郭の複合的な城郭として知られていますが、本丸・二の丸の範囲は近世城郭としての整備が進められています。

一方、丘陵部に展開する戦国時代の城郭遺構は、八幡山古郭東曲輪や三の丸外郭の清閑亭土塁、新堀土塁など史跡指定が進められ、史跡公園として公開されています。

This place is located on the southern moat("Minami-bori") of the second Bailey("Ninomaru") of Odawara Castle.

Stone wall of the southern Bailey("Minami kuruwa") can be seen in the front. There used to be a two storied watchtower("yagura") during the Edo Period.

史跡小田原城跡の主な整備事業一覧

- 昭和28年(1953) 天守台石垣復旧
- 昭和35年(1960) 天守閣復興
- 昭和46年(1971) 常盤木門復興
- 昭和62年(1987) 住吉堀復元工事開始
- 平成2年(1990) 住吉堀・住吉橋復元工事完了
- 平成7年(1995) 銅門枳形石垣復元整備工事完了
- 平成9年(1997) 銅門復元工事完成
- 平成11年(1999) 本丸東堀遺構表面表示
- 平成18年(2006) 馬出門枳形石垣復元整備工事完了
- 平成21年(2009) 馬出門枳形門・土塀整備工事完了
- 平成23年(2011) 馬屋曲輪修復整備事業完了



江戸時代末南曲輪一帯

Illustration map of Odawara Castle during Edo Period.

南曲輪には西南隅(御用邸跡)と東曲輪(東土文化館)の上の隅に建てられていました。この櫓は千鳥居や石垣の手摺りなどから二重櫓でした。櫓が立っている跡は現在一帯は埋め立てられた場所に復元されています。



南曲輪西南二重櫓 Double Watchtower of Southern Bailey of Odawara Castle

櫓の文字が削れた「アオーイスト」跡は4年(1971)12月1日に落成された東山園西曲輪の年表です。築城時には、東山園や白根山など、惣門まで大堀で囲われ、正徳の石垣、二の丸堀と南曲輪の石垣ですが、大正安永1948年の関東大震災によって崩壊し、昭和初期に復元されたものです。

Photograph of the watchtower in the southern Bailey (Ninomaru) at Odawara Castle in the Edo Period. (JFAP)



馬出門と銅門

Umadashi-moon Gate and Akagane-mon Gate

小田原城への登城は、馬出門土塀を渡り馬出門を通って、馬屋曲輪から住吉橋を渡り、銅門を通り二の丸東堀に至ります。銅門枳形から本格的にスタートした近世小田原城跡の史跡整備は、この大手筋の整備ルートの歴史的景観を復元して進められてきました。



小田原城天守閣

Donjon of Odawara Castle

小田原城天守閣は復元する予定の石垣跡の中核的な土塁に復元された鉄筋コンクリート造で外観復元されました。本館跡から石垣堀溝が一望でき、天守台の隅には築城年表まで見ることが出来ます。

南堀と南曲輪跡(左手)を西側から東方向に見たところ

 video



これはその南堀に架かる小峰橋(御茶壺橋)/渡った左手が南曲輪跡、右手は御茶壺曲輪跡

[video](#)



箱根口門から入城すると、この橋を渡り、住吉橋へと進むことになる

小峰橋（御茶壺橋）

江戸時代に小田原城三の丸への出入口としては、大手口と幸田口、箱根口があり、それぞれ大手門、幸田口門、箱根口門を設けていました。

南方の箱根口門から入城すると、この小峰橋を渡り、次に住吉橋を渡って内部に入ることができます。

この橋の正式名称は小峰橋ですが、現在では御茶壺橋という名称で親しまれています。

江戸時代、宇治から将軍家に茶を献上する際に、幕府は御茶壺道中と呼ばれる行列を仕立てて運搬しましたが、小田原城内には御茶壺を保管するための御茶壺蔵が設置されていました。その際、御茶壺がこの橋を往復したことにちなんで、御茶壺橋と呼ばれるようになったといわれています。

Komine-bashi Bridge (Ochatsubo-bashi Bridge)

In the Edo period, there were three entrance gates "Oteguchi", "Kodaguchi", and "Hakoneguchi" of Sannomaru (the third enclosure) in Odawara Castle.

From the southern entrance gate "Hakoneguchi", people cross this bridge and "Sumiyoshi-bashi Bridge", then get into the castle.

This bridge is formally called "Komine-bashi Bridge", but now popularly called "Ochatsubo-bashi Bridge".

During the Edo period, when tea leaf was presented to the shogunate from Uji (a major source of green tea in Kyoto), a special procession with Ochatsubo (a tea canister) carried to a temporary storehouse of Ochatsubo in the castle, crossing this bridge and back. So it was given another name "Ochatsubo-bashi Bridge".

左手を見たところ/これは「御感の藤」



御感ぎよかんの藤

樹名ノダフジ(マメ科)

昭和三十二年三月三十日 小田原市天然記念物指定
昭和五十九年十二月 かながわの名木百選選定

この藤は、小田原城二の丸御殿に鉢植えされていた藩主大久保公愛玩のもので、明治維新後、市内板橋の森元氏の手に渡り、明治十六年に市内唐人町(浜町)の西村氏が買い受けて育てられたと伝えられています。

大正天皇が皇太子のとき、小田原御用邸に滞在中のある日、西村邸の前を通過した際、召馬が藤棚の下に駆け入ったために殿下の肩に花が散りかかってしまいました。周囲の人々が恐縮していると「見事な花に心なきことよ」と感嘆されたことから、「御感の藤」と呼ばれるようになりました。

大正十一年三月、小田原保勝会の人々により西村家からこの地に移植され、今日まで小田原の名物として私たちの目を楽しませています。

樹齢は約二〇〇年と推定され、既に壮年期を過ぎた古木ですが、五月の開花期に藤棚いっぱい花房が下がった様子は誠に壮観です。

小田原市教育委員会

オオガ 南堀の大賀ハス

スイレン目ハス科

学名：Nelumbo nucifera

英名：Lotus

ハスの和名は、万葉時代に花托の形がアシナガバチの巢カタクに似ていることから「蜂巢(ハチス)」と名付けられ、のちに「子」が省略されて「ハス」となりました。南堀に群生するハスは、1979年(昭和54年)に大賀ハスを株分けして繁殖させたものです。

花・葉とも高さ1~2mに成長し、夏になると直径20cm程の花が咲きます。根茎は泥の中に節の多い蓮根(レンコン)を作ります。

大賀ハスは、1951年(昭和26年)に千葉市検見川の落合遺跡で発掘された、今から2000年以上前のハスの実から発芽・開花したハスです。植物学者の大賀一郎博士の手によって開花したこのハスは、博士の姓をとって「大賀ハス」と名付けられました。



小田原ロータリークラブ寄贈

「御感の藤」と「大賀ハス」を見たところ



小峰橋(御茶壺橋)の右手を見ると土塁が続いている

 [video](#)



その先は石垣に沿って水堀が巡っている/石垣の向こうは馬屋曲輪跡

 [video](#)



その右手の様子

 video



更に右手は水堀が折れて北方向に続いている/前方に馬出門土橋と学橋が見える

 [video](#)



⑫ 箱根口門跡

さて、こちらは小峰橋(御茶壺橋)手前の三の丸跡にあった箱根口門のエリア/説明坂がある/右手の建物はスポーツ会館



箱根口周辺の遺構

国道1号線（東海道）からお茶壺橋にかけての1帯は、江戸時代には小田原城三の丸の出入口の一つである「箱根口」とそれに関連する遺構があった場所です。
この付近1帯ではたびたび発掘調査が行われ、戦国時代の堀・建物・水路跡や江戸時代の堀跡など、時代の異なった各種の遺構が発見されました。

スポーツ会館敷地内では、戦国時代の水路跡や江戸時代の17世紀中頃に造られたクランク状に屈折した堀（「箱根口入堀」）などが発見されました。この堀は堀幅15×20メートル、深さ6メートルほどの規模で、江戸時代前期の小田原城の絵図である「正保図」（一六四四〜一六四七年頃成立）には描かれていますが、その後の絵図には見られないことから、延宝年間（一六七三〜一六八〇）に行われた箱根口門の改修工事において埋め立てられたものと考えられます。水路は石組みで東西方向に延びるもの（1号水路）と南北方向に延びるもの（2号水路）がありました。

また、スポーツ会館と三の丸小学校の間の市道の下にも、戦国時代の16世紀中ごろ、後北条氏によって造られた堀（1号堀）や、後北条時代の終りごろにあたる16世紀末に埋め立てられたと考えられる東西に延びる堀（2号堀）が発見されました。この堀は後北条氏の堀の特徴である、堀の中に衝立のように仕切りを設ける「障子堀」といわれる形式の堀です。更にスポーツ会館から三の丸小学校にかけて、複雑に折れ曲がる堀（3号堀）が発見されました。箱根口入堀より古く、江戸代初期にあたる17世紀初頭に作られたと考えられるもので、幅約16メートル、深さ約5メートルの規模で確認されました。この堀は瓦を含む大量の土砂によって埋め立てられていることから、慶長19年（一六一四）に小田原城主、大久保忠隣が「領地を取り上げられること」になった際に徳川家康・秀忠親子によって埋め立てられたものと考えられます。

このようにスポーツ会館や三の丸小学校周辺からは戦国時代や江戸時代の様々な遺構が発見されたことにより、延宝年間（一七〇三〜一七〇九年）の箱根口周辺の大規模な改造までの間に、この付近の土地利用や城の縄張りが何度となく変更していたことが分かりました。スポーツ会館敷地内には、箱根口入堀や1号・2号水路の遺構の位置をレンガや玉石などで表示しています。また箱根口門の東櫓台跡と塙形土塁の一部を整備し開放しています。



発掘調査等で明らかにされた箱根口周辺の遺構



正保図（江戸時代前期の箱根口付近）



小田原市教育委員



小田原城三の丸



正面のマウンドは三の丸跡の土塁/手前の地面のレンガは「2号水路」の位置を表しているようだ



道路側から見たところ/左手に折れている



スポーツ会館の裏側に廻って土塁を見たところ



先程の道路の方へ延びている



⑬ 清閑亭

さて、ここは「清閑亭」



「清閑亭」は登録有形文化財となっている

国指定史跡 小田原城跡 三の丸土塁(清閑亭土塁)

史跡小田原城跡 三の丸土塁(清閑亭土塁)について

清閑亭土塁は小田原城三の丸土塁の一部で、天神山丘陵の尾根が平地部に接する部分にあり、この地形を利用して土塁や空堀を巧みにめぐらし、城の出入口である虎口も設けていたようです。北側には城の中心域を控える一方、南側には城下町が広がっており、戦国時代から重要な位置にあったことがうかがえます。この清閑亭土塁は平成18年1月に国指定史跡に指定されました。

小田原城八幡山古郭・総構について

戦国時代の小田原城は現在の城址公園部分ばかりでなく、さらに西側の県立小田原高校付近までをその中心域としており、この区域を「八幡山遺構群」と呼んでいます。現在も空堀の跡が地表で観察できる場所があるほか、発掘調査で堀跡や井戸跡、石積み等を伴う道路の跡が確認されたところもあります。

総構(そうがまえ)は天正18年(1590)の豊臣秀吉による小田原攻めに備えて築かれた小田原城の一番外側の守りで、全周約9kmの土塁と空堀で城下町を囲んでいます。これにより小田原城の面積は約3.48平方キロメートルにも達し、全国有数の規模を誇る巨城となりました。総構は現在でも町のあちこちにその遺跡をとどめていますが、特に西部丘陵地帯は保存状態がよく、北条氏による築城の技術を観察することができます。



小田原城全体図

国登録有形文化財 清閑亭(旧黒田長成別邸)

国登録有形文化財 清閑亭(旧黒田長成別邸)について

清閑亭は貴族院副議長・枢密顧問官などを務めた侯爵黒田長成(慶応4年(1867)・昭和14年(1939))の小田原別邸として明治39年(1906)に設けられました。現在、数寄屋風書院造の母屋と海への眺望に優れた庭園が残されています。建物は木造平屋建(一部2階)入母屋造りの和風建築で、母屋は数寄屋書院造となっており、大正初期頃の様式を備え、かつての邸園(邸宅・庭園)の趣を伝えています。明治40年(1907)には隣に閑院宮別邸が設けられ、宮家と黒田家とは交流を深めていました。その後、昭和21年(1946)から昭和38年(1963)までは東京国立博物館長などを歴任した浅野長武が住まい、東洋学者ルネ・グリュッセ、松永安左衛門ら著名人も数多く訪れました。母屋は平成17年(2005)7月に国の登録有形文化財となり、平成22年(2010)6月から小田原邸園文化の交流拠点として公開されています。

小田原の邸園(邸宅・庭園)について

小田原では明治22年(1889)に本町四丁目の海岸に伊藤博文が別邸滄浪閣を建設したことや、明治33年(1900)に小田原城跡に御用邸が設けられたことなどが契機となり、戦国の雄北条氏や豊臣秀吉が築いた石垣山一夜城の遺る小田原を好んだ政財界人・文人の邸園が数多く開かれました。特に広大な小田原城の遺構群は北条氏や豊臣秀吉などの英雄をしのばせる場所として好まれ、土塁からの眺めや土塁と堀の起伏をいかした邸園がつくられていきました。

小田原城周辺では、南町や板橋に多く別邸がありましたが現在も清閑亭をはじめ、南町の田中光顕伯爵別邸(現・小田原文学館)や板橋の松永安左衛門別邸(現・小田原市郷土文化館分館松永記念館)などが保存・公開されています。



清閑亭平面図



黒田長成(1867~1939) 出典: 国立国会図書館蔵

八幡山古郭や総構についても記されている

史跡小田原城跡 三の丸土塁(清閑亭土塁)について

清閑亭土塁は小田原城三の丸土塁の一部で、天神山丘陵の尾根が平地部に接する部分にあたり、この地形を利用して土塁や空堀を巧みにめぐらし、城の出入口である虎口も設けていたようです。北側には城の中心域を控える一方、南側には城下町が広がっており、戦国時代から重要な位置にあったことがうかがえます。この清閑亭土塁は平成18年1月に国指定史跡に指定されました。

小田原城八幡山古郭・総構について

戦国時代の小田原城は現在の城址公園部分ばかりでなく、さらに西側の県立小田原高校付近までをその中心域としており、この区域を「八幡山古郭」「八幡山遺構群」と呼んでいます。現在も空堀の跡が地表で観察できる場所があるほか、発掘調査で堀跡や井戸跡、石積みを伴う道路の跡が確認されたところもあります。

総構(そうがまえ)は天正18年(1590)の豊臣秀吉による小田原攻めに備えて築かれた小田原城の一番外側の守りで、全周約9kmの土塁と空堀で城下町を囲んでいます。これにより小田原城の面積は約3.48平方キロメートルにも達し、全国有数の規模を誇る巨城となりました。総構は現在でも町のあちこちにその痕跡をとどめていますが、特に西部丘陵地帯は保存状態がよく、北条氏による築城の技術を観察することができます。

「清閑亭」敷地内には小田原城の土塁や堀跡の痕跡が残る



土塁と堀跡



こんな感じ



⑭ 御用米曲輪跡

さて、ここは本丸跡から北に向かったところにある「御用米曲輪跡」



全国指定史跡 小田原城跡

昭和十三年八月八日
 昭和三十四年五月二十九日
 指定
 昭和五十二年五月四日

戦国大名北条氏の本城である小田原城は、当時としては全国屈指の雄大な規模を誇っていたことで知られています。豊臣秀吉が天正十八年（一五九〇）に小田原城を攻めた時には、小田原城本体のさらに外側に全周約9kmもある大外郭を設けて城下町をも包み込み、城と城下町の守りを固めて秀吉を迎え撃ちました。これは「総構」などと呼ばれています。江戸時代になると、小田原城は範囲を縮小され、天守がそびえる石垣の城として生まれ変わりました。

ここは御用米曲輪といい、江戸時代には江戸城に送る御用米を貯える米蔵が建てられていました。御用米曲輪の周囲は石垣ではなく土塁で囲まれており、北条氏時代の姿を残している部分と考えられています。

小田原城城郭図 (江戸末期)



小田原市教育委員会

国指定史跡 小田原城跡 御用米曲輪 発掘調査 揭示板

御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

発掘調査の目的



発掘調査の結果



御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

発掘調査の結果



発掘調査の結果



御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

発掘調査の結果



発掘調査の結果



御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

発掘調査の結果



発掘調査の結果



御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

発掘調査の結果



発掘調査の結果



御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

発掘調査の結果



発掘調査の結果



御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

発掘調査の結果



発掘調査の結果



御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

発掘調査の結果



発掘調査の結果



御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

発掘調査の結果



発掘調査の結果



御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

発掘調査の結果



発掘調査の結果



御用米曲輪の整備に伴う発掘調査

発掘調査の結果



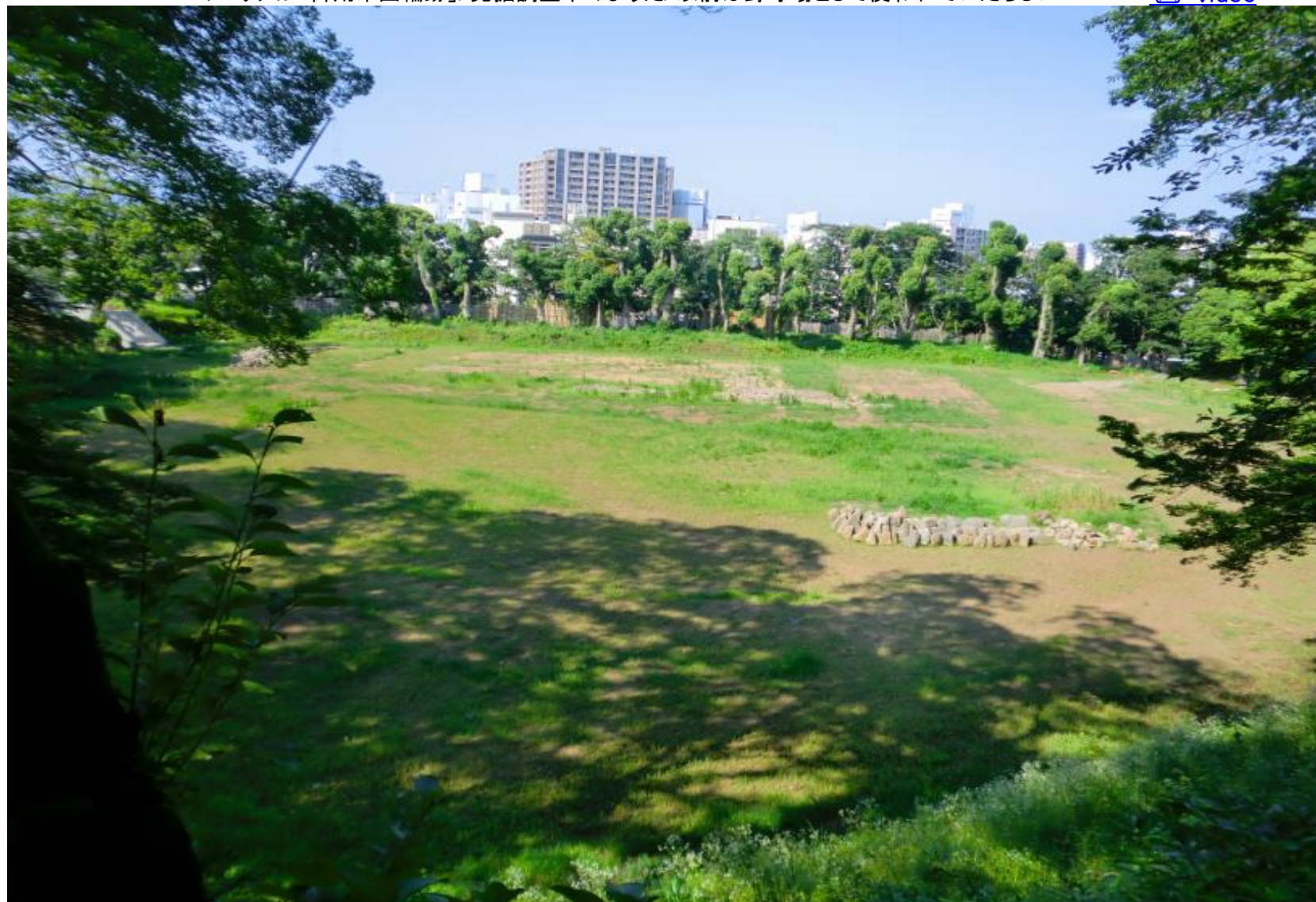
発掘調査の結果





このエリアが「御用米曲輪跡」/発掘調査中のようだ/以前は野球場として使われていたらしい

 [video](#)



瓦積塀で囲まれた空間

A space divided by a tiled wall

この場所は、御用米曲輪北西土塁の裾にあたり、瓦と土で積み上げられた瓦積塀が2列見つかりました。

瓦積塀の奥には石垣が築かれ、手前からは柱穴列が見つかったことから、囲まれた空間が存在したと考えられます。囲まれた空間は約10m四方であり、柱穴列は柵などとみられます。柱の間隔が一部広く空く場所があり、この部分が入り口である可能性があります。空間の底面には砂利が敷かれていました。石垣は北へと延びていますが、どのような構造が続くのかは不明です。

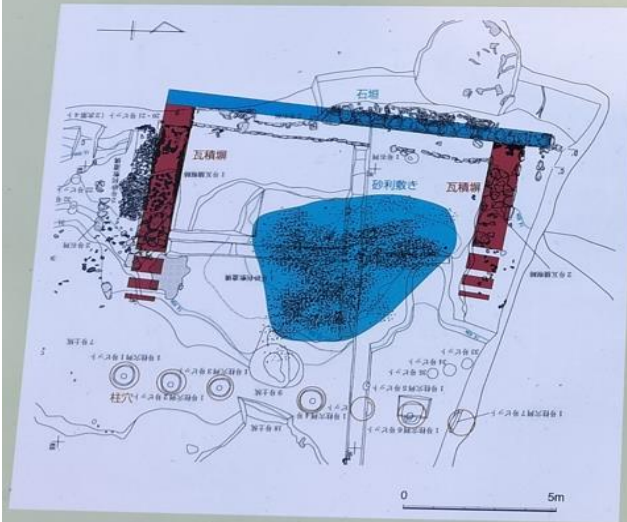
瓦積塀は、基礎に根府川石を敷き、主に平瓦を転用して積み上げています。塀は、上部は後世の削平を受けており、もともとの高さや上部構造は不明ですが、残る瓦積塀の高さから150cm以上の規模を持つことが確認されました。瓦の年代から塀は元禄16年(1703)以降に築かれたものとみられます。

この空間は、絵図や文献に明確な記載はなく、どのような使われ方であったのかは分かっていませんが、構造的には宗教施設や煙硝蔵等の可能性が考えられます。

相次ぐ災害や明治時代の廃城により、江戸時代の建物の残っていない小田原城においては、江戸時代から遺る唯一の構築物ということになります。

An enclosed space made by a wall of tiles and earth from the Edo period was excavated from this place. The space was surrounded by stone walls, tiled walls and fences.

This space was about 10 meters square, and the floor was covered with pebble. The tiled wall was made by laying stones on the bottom and stacking flat roof tiles over 1.5 meters high, and the wall was built after 1703. However, pictorial maps or historical documents showing the usage of this space do not exist, the structure suggests it may have been a religious place or a gunpowder storehouse.



発掘調査で確認された空間



江戸時代の絵図に見る瓦積塀の位置



全景(北西から)



瓦積塀と基礎の石(南東から)



瓦積塀の側面(北から)

国指定史跡
小田原城跡

御用米曲輪の蔵跡

Goyomai-kuruwa Bailey storehouse Ruins

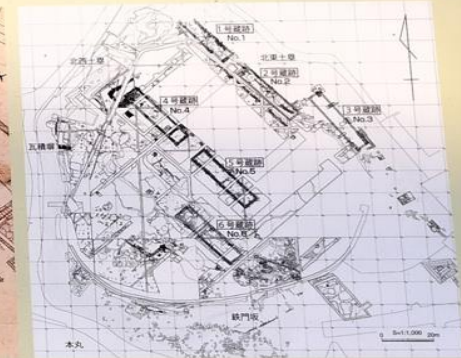
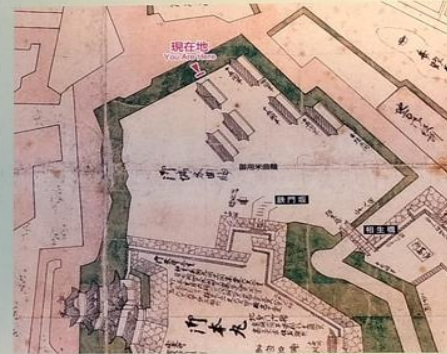
御用米曲輪は、本丸の北側に位置する曲輪です。この曲輪は、外周を土塁と堀で囲われており、曲輪への出入りは二の丸から相生橋を渡って入るか、本丸側から鉄門坂を下って入るしかありません。このような閉ざされた曲輪には、江戸時代の初めより幕府天領などから納められた米を保管する蔵が置かれ、「百間蔵」「城米曲輪」「御用米曲輪」などの名称で呼ばれる小田原城にとって大変重要な場所でした。

城絵図などの資料から、蔵の規模は3間×15間(約5.9m×約29.5m)で、文政4年(1821)頃には、北東土塁上に3棟、平場に3棟の計6棟の蔵が存在し、蔵には米のほか、大豆、小豆、あらめ、塩、武具などが備蓄されていたことが分かりました。

平成22~27年(2010~2015)に行われた発掘調査でも、6棟の蔵跡が確認されましたが、この中で6号蔵跡は、一番新しく19世紀以降に構築された可能性が高いなど、蔵の構築時期に差があることが分かりました。また、遺構からは、布基礎状に外周を掘り込み、人頭大の礫と土や砂利を積み重ねた重厚な造りの基礎であったことが確認されました。これらの蔵跡の遺構は重なっていないことから、場所を変えずに建て替えが行われてきたものと考えられます。蔵跡の周辺からは、徳川将軍家の家紋である三ツ葉葵紋の軒丸瓦が多数出土しており、天守閣に展示されています。

This bailey (courtyard) held extremely important storehouses that stockpiled food, particularly the rice which was paid as tax from territories of the Edo Shogunate. Storehouses were typically 29.5m long and 5.9m wide. A total of six storehouses have been found on top of the earthen walls and on the ground at this site. Other than rice, they were used to store , soybeans, azuki (red beans), arame (Eisenia bicyclis), salt, and armor as well.

Recent excavations have revealed some roof tiles featuring the family crest of the Tokugawa shogunate (Mitsuba Aoi Mon – three mallow leaves). The plaster door of the storehouse is on exhibit inside the castle keep (donjon) gallery.



文久図に描かれた江戸時代末期の御用米曲輪 調査で確認された6ヶ所の蔵跡
Storehouse ruins in the map of Odawara castle drawn circa1861 Ruins of 6 storehouses confirmed by the excavation



御用米曲輪から出土した三ツ葉葵紋の瓦
Excavated roof tile with the design of Mitsuba Aoi Mon (Three mallow leaves) in Goyomai-kuruwa Bailey



発掘された4・5号蔵跡の基礎
Excavated cornerstones of storehouse ruins (location No.4 and No.5)

⑮ 焔硝曲輪跡

さて、ここは「御用米曲輪跡」の北側にある「焔硝曲輪跡」のエリア/説明坂がある



蓮池辨財天記

大永2年(西暦1522)蓮上院+三世住職亮海の勧めにより、北條氏康が江之島の辨財天を武運と住民の繁栄を願って此の地に勧請したのが起りである。

辨財天は、須佐之男命の女神、多紀理比亮、市寸島比亮、田寸津比亮の三女神を役小角(修験道の創始者)が印度の女神辨財天の魂と霊覺し以後神佛習合の神、怨敵を滅ぼし、福德宝を授ける神として信仰されている。

江之島の辨財天は、源頼朝が武運の神として信仰し、北條時政は、参籠して奇瑞を蒙り、竜の三鱗を授けられ家紋となし、小田原北條も三鱗を家紋となし辨財天を信仰した。

蓮上院の口伝によれば、北條氏の要請により、天守に安置された辨財天の祈禱を毎月続けて来たが、徳川の世となるにおよび大久保家により祭典が執行され、明治維新以後は、護持者を失い、奇持者により数度うつり変わり、昭和28年石碑に記載された人々により、此の地に安置された。

Hasuike Benzaiten (the Buddhist Goddess of Fortune at the Lotus Pond)

Benzaiten is the Goddess of Fortune created by the mixture of Buddhism and Shintoism. The statue of Benzaiten was originally worshipped by Ujijyasu Hōjō whose family had deeply believed in the Goddess as the protector of their military clan since the time of Yoritomo Minamoto (Shogun in Kamakura period). The statue was moved to this site in 1953 when it lost the patron, the Hōjō clan.



ここが蓮池辨財天社



⑩ 弁財天曲輪跡

ここは「焰硝曲輪跡」の東側の「弁財天曲輪跡」にある旭丘高校



「弁財天曲輪跡」のエリア



こちらが旭丘高校の表門



⑰ 大久保神社

さて、ここは大久保忠世を祀る大久保神社



大久保神社

小田原大久保家初代忠世並びに10代忠真を祀る。

大久保家は、下野(今の栃木県)宇都宮に勢力を持った藤原道兼の流れの宇都宮朝綱の子孫で泰藤のとき、建武の役に新田義貞に従い転戦したが、義貞が越前で討死したので三河の上和田に土着した。その後、姓を宇都宮から宇津に改め5代目昌忠(室町期)の頃から徳川の祖、松平信光に属した。昌忠の曾孫忠員の時、姓を宇津から大久保に改めた。忠世はこの忠員の子で遠州二股城主であったが、天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原攻略で徳川家康に従い参戦し、戦後4万5千石で小田原城主となった。

大久保家は2代忠隣のとき改易になり、その後大名に復活し5代忠頼のとき小田原藩主に帰り咲いたのは、70年不在の後であった。石高は、11万3千石に達した。忠真は、大阪城代、京都所司代、老中を歴任し、二宮尊徳を始め多くの人材を登用し、忠臣孝子を顕彰するなどし大久保家中興の名君と知られている。以降も代々小田原城主として栄え、15代忠良の明治の大政奉還まで小田原藩主として続いていた。

Okubo-jinja Shrine

This shrine was dedicated to Okubo Tadayo, the first of the Okubo clan and Tadasane the tenth. The Okubo clan was once the Utsunomiya clan, the descendant of Fujiwara no Michikane living in Shimotsuke (Tochigi), and in the Nanbokucho Wars, they fought with Nitta Yoshisada against Ashikaga Takauji. After the death of Yoshisada, they moved to Mikawa (Aichi and Shizuoka) and renamed Utsunomiya to Utsu. In Muromachi period, they became the follower of the Matsudaira clan, the ancestor of the Tokugawa Shogunate, and renamed to Okubo.

Tadayo was the lord of Enshu Futamata Castle. When Toyotomi Hideyoshi attacked to Odawara Castle in 1590, he followed Tokugawa Ieyasu. After the war, he became the lord of Odawara Castle. Although Tadamasa the second was dismissed from the lord, his descendant Tadatomo was 70 years later, Tadasane contributed a great deal to the prosperity of the Okubo clan.



⑱ 北条氏政・氏照の墓所

こちらは北条氏政・氏照の墓所/小田原駅近くの街の中に所在している



7-8

小田原市指定史跡

北条氏政・氏照の墓所

北条氏政は、北条氏四代の領主。氏照は、氏政の弟で、八王子城など五つの支城の城主でした。

天正十八年（一五九〇）豊臣秀吉の小田原攻めにより小田原城が落城すると、五代領主氏直は高野山に追放され、父氏政とその弟氏照は城下の田村安斎邸（現南町）で自刃しました。

両人の遺体は、当時この地にあった北条氏の氏寺、伝心庵に埋葬されました。（現在、永久寺所有）

その後放置されていた墓所は、稲葉氏が城主の時（一六三三～一六八五）北条氏追福のため整備されました。大正十二年（一九二三）の関東大地震では墓所が埋没する被害を受けましたが、翌年地元の有志により復元されました。

小田原市教育委員会



正面に向って

●五輪塔

右 (大) 伝 氏政夫人の墓
中央 (中) 伝 氏政の墓
左 (小) 伝 氏照の墓

●生害石

五輪塔前の平たい石
この石の上で氏政・氏照が自刃じじんしたと
伝えられています。

●笠塔婆型墓碑

左手の墓碑

この墓碑には、次のように法号(戒名)
が刻まれています。

「慈雲院殿勝岩傑公大居士 天正十八
庚寅年七月十一日 北條相模守氏政」
「青霄院殿透岳關公大居士 天正十八
庚寅年七月十一日 北條陸奥守氏照」

笠塔婆型墓碑



五輪塔

なお、正面の北条氏の三つ鱗うろこの紋章は、正体紋ですが、平体紋
が使われているところもあり、いずれが正しいかは明らかでは
ありません。

小田原市教育委員会



○平等性智奉為首腎院殿透岳關公大居士

○大圓鏡智本為慈雲院殿勝岩傑公大禪定門

五位每歲忌追善供輪塔

五位

平成十七年七月十一日 永徳寺住持 氏成
「首腎院殿透岳關公大居士 天正十八
庚辰年七月十一日 此條院殿守成院
公の正徳の年七月十一日の忌に、正徳院殿守成院
が建てたところあり、いづれお寺しからず、お寺では
ありません。 小田原市教育委員会

関東大震災により墓所が埋没の被害を受けたが、翌年に復元されたことを記念した石碑も立っていた





| | |
|--|---|
| 観光案内所 Tourist Information 観光案内所 | Free Wi-Fi Public Wireless LAN Service 公共無線LANサービス ※公衆無線LANサービス ※公衆無線LANサービス |
| トイレ Toilet 洗面所 化粧室 | 授乳室 Nursing room 授乳室 全乳室 |
| 障がい者用トイレ Toilet for people with disabilities | 喫煙所 Smoking area |